

令和2年度

研究紀要

研究主題

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫
— 教員間で活用する「单元シート」の作成を通して —



宮城県立石巻支援学校

〒986-0861

宮城県石巻市蛇田字新立野410-1

TEL 0225-94-0202

FAX 0225-94-0206

目次

まえがき

《研究の概要》

I	研究主題・副題	・・・・・・・・研究紀要ー	1
II	主題設定の理由	・・・・・・・・研究紀要ー	1
III	副題の「単元シート」について	・・・・・・・・研究紀要ー	2
IV	研究目標	・・・・・・・・研究紀要ー	2
V	研究の内容と方法	・・・・・・・・研究紀要ー	2
VI	研究計画	・・・・・・・・研究紀要ー	4
VII	研究の実際	・・・・・・・・研究紀要ー	4
VIII	研究のまとめ	・・・・・・・・研究紀要ー	1 4

《資料》

- I 学部研究の単元シート（小学部・中学部・高等部）
- II 研究通信（1～28号）

あとがき

研究同人

研究紀要の刊行に寄せて

宮城県立石巻支援学校 校長 三浦 由美

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応で、学校は4月から5月は臨時休業となり、教育課程を大幅に変更して6月から学習を始めました。そのような状況下で今年度の研究は、どのように進めればよいのか、また、校内研究そのものができるのかを模索するところから始まりました。

どのような状況下であっても、学習指導要領の改訂に沿って、教育課程を見直す作業は必要です。教師一人一人が最も不安に感じていたのが「各教科等の育成を目指す資質・能力」の視点でどのように授業を組み立てていくのか、また評価はどうするのかということです。

やらなければならないことは分かるけれど、どのように進めたらよいのか、を迷う中、今年度の研究部が、校内研究として「単元シート」を作成し活用していく授業研究を進めて行く方向性を提案しました。具体的には、「単元シート」をTT間や学年間で活用しながら「各教科等の育成を目指す資質・能力」の視点を取り入れ教師全員が一人一実践をすることで、自ずと教育課程の改善にもつなげていけるのではないかとこのものです。

研究部員の協議は、常に前向きで建設的な意見が多く出され、“これなら自分もできるかも”“やってみようか”と思える校内研究を目指して、丁寧な研究通信の発信、プレゼンを工夫した説明を積み重ねました。今年度最後の研究全体会では、研究部員全員が、一人一発表のポスターセッションを行い、学校全体に自らモデルとなって全員参加型の研究の在り方の一例を示しました。

校内研究を進め方は、学習指導要領の学びの視点にもつながるものがあるように思います。「何をやるか(学ぶか)」だけではなく「どのようにやるか(学ぶか)」が大切であると思います。

残念ながら、実践期間が短くなったために一人一実践はできませんでしたが、多くの教師が「単元シート」作成にかかわることができ、確実に「各教科等の育成を目指す資質・能力」を意識することができたと自負しています。研究部員の努力、また関わった全ての教師の頑張りによる成果です。

まだ実践半ばで、改善すべき課題が山積していますが、関係機関の皆様から多くの助言をいただきながら、この研究を教師一人一人のものにしていければと考えます。そして、教師一人一人の資質の向上が、子供たちの指導に生かされることを願ってやみません。

最後になりますが、関係機関の皆様には、今後とも御指導を賜りますことをお願い申し上げます、まえがきの言葉に代えさせていただきます。

I 研究主題・副題

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫
－ 教員間で活用する「単元シート」の作成を通して －

II 主題設定の理由

1 特別支援教育の動向

近年、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の推進に伴い、連続性のある「多様な学びの場」における児童生徒の学びを確保していく観点から、特別支援学校においては、小・中高等学校の教育課程との接続や、各教科等の指導内容の整理が求められている。

このような中、学習指導要領の改訂により、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等の涵養」という、三つの柱によって整理された。さらに、各教科に係る見方・考え方は、小学校等の教育と基本的に同じとし、知的障害のある児童生徒のための教育において、各教科等のどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示された。

2 昨年度の研究

昨年度、研究主題「児童生徒一人一人の目標到達に迫る指導・支援の在り方（3年次／3年計画）」に向けて、各段階¹ごとの内容を意識した授業作りに取り組んだ。全校研究授業やビデオを活用した授業検討会では、抽出した児童又は生徒に焦点を当てることで、実態に応じた目標設定の方法や目標達成に向けた手立てを検討することができた。授業検討会では、児童生徒の発達段階や教科の専門性などの視点から、学部の枠を超えて意見を交換し、教科の特性や系統性を踏まえた指導の手掛かりを得ることができた。また、外部講師を招いた研修会を行い、学習指導要領に示された資質・能力が偏りなく育成されるよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して指導を工夫していくことの重要性を確かめた。3年間の研究成果として、「授業作りの視点シート」を作成できた。

一方で、学習指導要領に示された各教科等の目標や内容を踏まえた実践が、研究授業などの一部の取組に限られていた。学習指導要領の改定に伴い、教育課程を見直しているところではあるが、学習指導要領で具体化された学習目標や内容を、日々の実践に生かしていくことが課題として残った。

3 学校の教育目標の具現化

本校は教育目標を「安全・安心な教育環境の中で、一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を、地域の教育資源なども有効に活用しながら行い、健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒を育成する。」と設定し、日々の実践に取り組んでいる。

平成28年12月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、これからの教員に求められる資質・能力の向上に向けて「学校教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえ、『何のために』『どのような改善をしようとしているのか』を教員間で共有しながら学校組織全体として指導力の向上を図っていきけるようにすることが重要」と述べている。本校においては、学校教育目標の具現化に向けて、学習指導要領で示された各教科等の目標及び内容を踏まえ、児童生徒一人一人に即したきめ細やかな指導を工夫していくことで、授業改善を図りたいと考えた。さらに、全職員参加型の共同研究を目指し、教員間で協働しながら、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して指導を工夫するため、「単元シート」を作成することが効果的であると考え、本主題を設定した。

1 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科は、児童生徒の障害の特性を考慮して、内容を学年別に区分せず、小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階で示している。

Ⅲ 副題の「単元シート」について

単元シートは、従来より、本校で活用している指導計画及び反省を記載する資料を基に、今年度新たに作成する様式とする。単元シートを活用して実践を積み重ねることで、各教科等の資質・能力を踏まえ、教員間で協働して指導を工夫・改善していくことを目指す。単元シートの様式を作成する上で、主な配慮点は次の4つである。

- 1 単元や題材の指導にあたり、各教科等の育成を目指す資質・能力と個別に育成を目指す資質・能力を把握できるようにする。
- 2 児童生徒に何が身に付いたかを見取り、学習評価を充実できるようにする。
- 3 学習評価を踏まえて実践を振り返り、次の単元や次年度の計画に生かせるようにする。
- 4 これまでの様式を基に作成し、教員が作成・活用する際の負担をできるだけ少なくする。

Ⅳ 研究目標

学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して指導を工夫・改善する。

Ⅴ 研究の内容と方法

1 研究の方法と内容

(1) 単元シートの様式の作成（研究部）

- ・単元シートの様式を提案する。また、学部研究における実践を踏まえて、単元シートの様式を改善する。

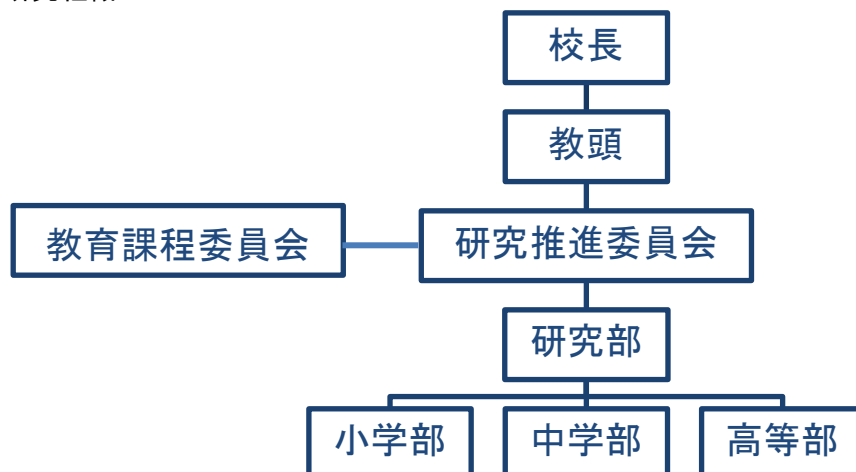
(2) 授業研究（各学部）

- ・小学部，中学部，高等部それぞれの実情に応じた実践を積み重ねる。
- ・単元シートを活用した実践を蓄積する。
- ・単元シートを活用した上で、様式の改善点や効果的な活用方法を検討する。
- ・各学部で研究授業（事前検討会，事後検討会）を行う。
- ・学部内及び各学部の実践を共有する。

(3) 調査分析・環境整備（研究部）

- ・単元シートを活用する事前と事後に教員対象の意識調査を行い、その結果を分析する。
- ・学習指導要領の理念を理解するための校内研修を実施する。（教育課程委員会と連携）
- ・研究通信を発行し、互いの実践を共有したり、様々な教育情報を発信したりしながら、教職員一人一人が校内研究に参画する環境を醸成する。
- ・職員用掲示板や研究資料保存用の本棚を整理・活用し、校内研究に関する情報を発信する。

2 研究組織



3 研究構想図

研究主題・副題

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫

— 教員間で活用する「単元シート」の作成を通して —

学校教育目標

健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒の育成

研究内容

授業研究 (各学部)

- ・ 単元シートの活用
- ・ 単元シートの様式の改善点や活用方法の検討
- ・ 研究授業の実施
- ・ 実践共有(ポスター発表)

調査分析・環境整備 (研究部)

- ・ 校内研修の実施
- ・ 意識調査 (教員対象)
- ・ 研究通信の発行
- ・ 環境の整備 (掲示板・資料展示など)

単元シートの様式を作成 (研究部)

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて単元や題材の指導を計画するための様式を作成

研究目標

学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して指導の工夫・改善を行う

育成を目指す資質・能力と単元の目標をどのように関連させたらいいの？

単元と個の目標の関連を明確にしないと、授業のねらいがあいまいになってしまう…

現状・課題

特別支援教育の動向

- ・ 新学習指導要領の改訂
- ・ 各教科等で育成を目指す資質・能力の明確化

昨年度の研究

- 成果：当該段階の目標と内容を意識した実践
- 課題：校内研究の取組を日々の実践に拡充

教育目標の具現化

- ・ 学習指導要領を踏まえた授業改善
- ・ 全員参加型の共同研究

VI 研究計画（1年次／2年計画）

日程	学部研究			研究部	教育課程委員会
	小学部	中学部	高等部		
4月14日	第1回研究全体会（校内研究の進め方について共通理解）				個別の指導計画の 新様式提案 個別の指導計画の 様式・内容の改善 教育課程改善に向けた記録 ↓ 教育課程の改善 個別の指導計画次 年度の様式の提案
4月～3月				研究通信の発行，環境の整備	
5月1日				校内研修 （新学習指導要領の理念）	
5月31日				単元シートの提案	
6月8日	・単元シートの活用 ・単元シートの様式の改善点や活用方法の 検討（6月～12月）			校内研修 （単元シートの提案と 作成の趣旨について）	
6月9～30日	意識調査（事前）			意識調査の集計・分析	
6月22日	事前検討会				
7月2日	研究授業 事後検討会			小学部研究授業の運営	
9月17日			事前検討会		
9月29日			研究授業	高等部研究授業の運営	
10月20日			事後検討会		
11月4日		事前検討会			
11月18日		研究授業		中学部研究授業の運営	
12月3日		事後検討会			
12月14～25日	意識調査（事後）			意識調査の集計・分析	
2月10日	実践の共有 第2回研究全体会（研究のまとめと次年度の研究テーマの提案）			ポスター発表	

VII 研究の実際

1 単元シートの様式を作成（研究部）

単元シートは、単元や題材の指導にあたり、主に7つの項目を記入するシートである（図1）。それぞれの項目をAからGの記号で示し説明する。なお、A・C・Gの項目は、本校で活用している単元の指導計画及び反省を記載する資料を基にした部分である。

【単元シート（保存用）】 ○○部○年・グループ 「(単元名)」指導計画

指導形態／教科・領域	関連行事等	時数	期間	記入者（TT）
単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力		
A 単元の目標		B 単元で育成を目指す資質・能力		
時期	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	評価
		C 主な学習内容		個別の目標
				D 個別の目標
				E メモ欄
単元の反省（学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から）		学習評価		
G 単元の反省		F 学習評価		

図1 単元シートに記入する7つの項目

A 単元の目標

教育課程を基に単元の目標を設定するが、改訂された学習指導要領を踏まえて、工夫点や改善点があれば記載する。

B 単元で育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）

学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、単元において育成を目指す各教科等の資質・能力を3観点で明確にする。教科別の指導の際は、「A単元の目標」と同様の内容になることがある。各教科等を合わせて指導する際は、児童生徒の実態に応じて、教育課程に示された教科の内容を焦点化することがある。

C 主な学習内容（何を学ぶか）

教育課程を基にしながら、「B単元で育成を目指す資質・能力」や「D個別の目標」を踏まえて、学習内容及び学習活動や教材等を設定する。

D 個別の目標（何ができるようになるか）

「B単元で育成を目指す資質・能力」を踏まえて、児童生徒の当該段階に応じた目標を設定する。児童生徒によっては、焦点化して設定した「B単元で育成を目指す資質・能力」に加えて他の教科や内容を設定することもある。

E メモ欄

実践をしながら、目標達成に向けた手立てや児童生徒の具体的な様子などを記録する。

F 学習評価（何が身に付いたか）

「B単元で育成を目指す資質・能力」や「D個別の目標」に基づき、3観点で評価する。学習指導の在り方を見直しや個に応じた指導の充実につなげる。

G 単元の反省

「F学習評価」を踏まえ、学習内容・教材や教具・指導時数・指導形態などの視点から単元の指導を振り返る。次年度に同様の単元を計画する際の資料とし、教育課程の改善につなげる。

2 授業研究（各学部）

（1）単元シートの活用状況

研究部が提案した単元シートの様式を踏まえ、6月から12月に授業研究を行った。90%以上の教員が単元シートを作成した実践に関わることができた（図2）。また、教員間で協働的に単元シートを作成した実践が多かった。先述した単元シートの7つの項目をどれだけ記したかまとめた結果を図3に示す。個別の目標の項目を記入して実践を積み重ねている一方で、学習評価や単元の反省を記入した教員が少ないことが分かった。

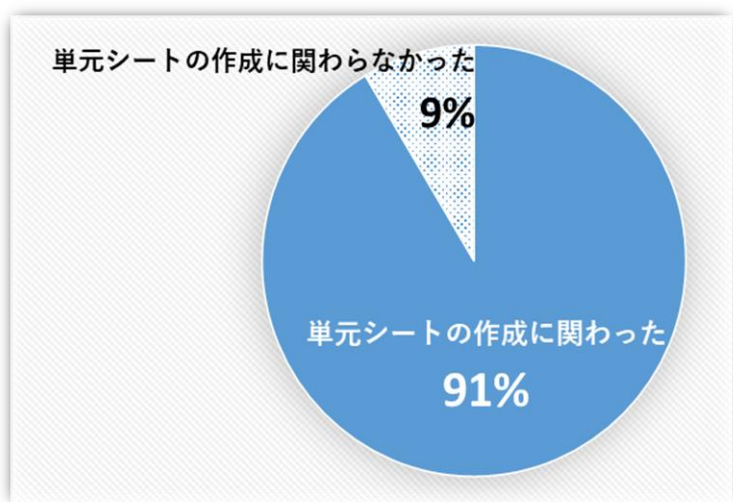


図2 単元シートの作成に関わった割合

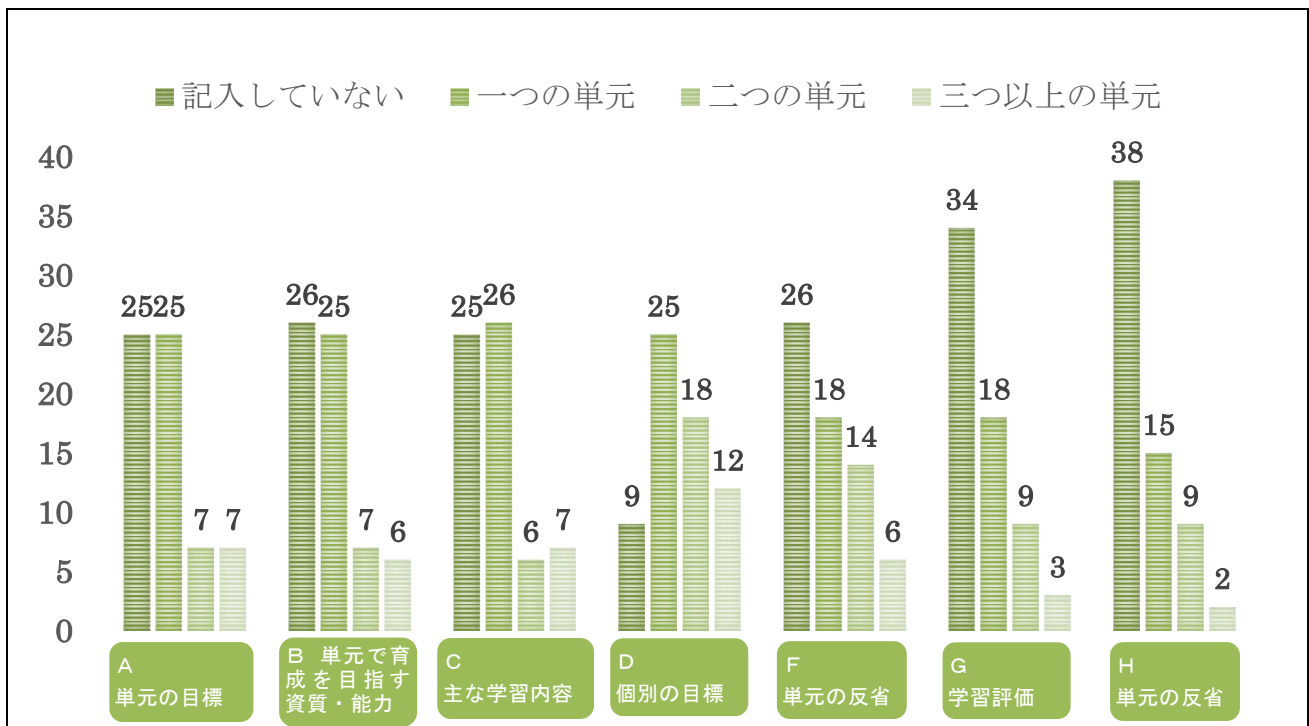


図3 単元シートの各項目に記入した単元の数

(2) 小学部の取組

① 概要

6月～12月の研究期間の中で、7月に研究授業を行い、検討会を行った。また、単元シートの作成には、9割以上の教員が関り、個別の目標作成には複数回関わった教員も多かった。教員それぞれが実践を重ねる中で、扱う題材や学年の児童の実態に応じたシート様式を試行錯誤したり、活用方法を検討したりした。学習指導要領に示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえながら、教員間の連携を図ることができた。一方で、シートの効果的な活用方法や、評価や反省の仕方に課題が残った。

② 授業研究

小学部5年1・2組（9人） 遊びの指導「ルールのある遊び」

ア 事前検討会（6月22日実施）

始めに、1単位時間の参観で単元シートの有用性を検証するために、個の学びに着目し、次の二つの視点で参観することを確認した。

視点①「一人一人の学びが各教科等の資質・能力の育成につながっているか」

視点②「その他（主題に関連して、単元シート形式期の改善点など）」

その上で、参観する方法を「児童それぞれの学びの様子を役割分担して参観する」や「その様子を付箋紙に記入し、全員参加型のワークショップによる事後検討会を行う」と確認した。

授業者が作成した単元シートと授業シートについて説明し（詳細は別紙、資料編、小学部の単元シート・授業シート参照のこと）、以下の点について確認や検討をした。

- ・シート作成の手順は、始めに、T1が単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画を提案し、次に、各担当が個別の目標を設定した。その上で、再び単元の目標や育成を目指す資質・能力を見直したり、さらに個別の目標を設定しなおしたりする等、個別の目標に合わせて学習内容を見直ししながら、シートの作成を行った。
- ・単元の資質・能力の教科が複数あったが、個別の「資質・能力」の目標について話し合いを重ねて焦点化した。

イ 研究授業（7月2日実施）

導入ではウォーミングアップで楽しく体と気持ちをほぐしてから、玉すくいゲームに取り組んだ。ルールは、「順番を守る」「友達を応援する」「勝っても負けても楽しく」と確認し、赤と青のチームと順番を提示するなどの工夫があった。

児童は順に、ざるをバトン代わりにしてボールをすくい、落とさないようにコーンを回って戻り、比べ棒に並べると次の友達に交代することができた。友達に声援を送ったり、ざるのボールを落とさないように集中して運んだり、活動終了後の片付けまで、意欲的に活動する姿が見られた。

ウ 事後検討会（7月2日実施）

（ア）自評

- ・児童の個別の目標を共有することができ、授業作りの工夫を教員間で連携して行うことができた。
- ・本時では、勝敗を受け入れることができたり、もっとボールをすくおうとしたりするなど、児童の成長が見られた。
- ・児童の反応を待ったり引き出したりする働き掛けが十分ではなかった。

（イ）ワークショップの主な内容

視点①一人一人の学びが各教科等の資質・能力の育成につながっているか

○成果

- ・上部に提示された順番表示を見たり、ざるをバトン代わりに手渡したりすることで、順番を意識することができた。この内容が、生活の学びにつながることを確かめた。
- ・ボールを使って得点を視覚化することで、赤と青のボールを比べる意識を持つことができた。これは、算数の学びにつながることを確認した。

○課題

- ・一人一人の活動を見合う時間があったが、その分活動量が少なかった。時数を増やして、競争要素を取り入れる等の検討が必要である。

視点②その他（主題に関連して、単元シート形式の改善点など）

○成果

- ・個別の目標を提示することで、授業作りのポイントが具体的になり、資質・能力の育成につながりやすくなる。
- ・メモ欄を活用することで、評価につなげていくことができる。

○課題

- ・様々な実態の集団の活動において「どのようなゲームだったらすべての目標が達成できるのか」といった「場」や「内容」が大事になってくる。
- ・それぞれの児童の活躍の「ポイント」を明確にして授業作りをするために、単元シートを活用する方法を探っていきたい。

③ 12月の意識調査

学部では9割を越える教員が単元シートの作成に関わった。アンケートの自由記述欄には、「単元シートを記入することによって、教科等を合わせた指導について、何の教科を合わせて指導しているかを意識できるようになってきた。」という記述があった。このことから、単元において育成を目指す各教科等の資質・能力を踏まえて実践しようとする意識が高まったといえる。また、「計画と反省の段階で、児童の実態や支援方法、活動内容について話し合い、次の学習に生かせるようにしたい。」「今後、作成した単元シートを机上に出しておいて、すぐに見たりメモをしたりできるようにしていきたい。」などの記述があった。このことから、指導の工夫、改善に向けて、単元シートの有用性を感じていることが分かった。

④ まとめ

主な成果と課題は以下のとおりである。

○成果

- ・研究授業では、個別に設定した各教科等の育成を目指す資質・能力と、授業の児童の学びの姿を照らし合わせて参観することで、その授業の中で目指す児童の姿が具体的になった。
- ・様々な実態の児童に合わせた学びを考えながら、学習を展開する意識が高まった。
- ・単元シートを教員間で活用することで、個別の目標や手立てを共有することができた。

○課題

- ・単元シートのいろいろな項目に関わる実践を重ねていながら、シートの効果的な活用の仕方や改善点を考えていきたい。
- ・単元終了後の反省までを含めた単元シートの作成の仕方を工夫していきたい。

(3) 中学部の取組

① 概要

中学部は、音楽や保健体育、作業学習などの授業は学年を越えて学部全体で行うことが多い。そのため、7月には、学部全体で授業を行っている音楽で単元シートを作成し、多数の担任が個別の目標を設定し、記入している。その後、授業研究では、学部で検討しながら保健体育の単元シートを作成するなどして、10人の教員が単元シートを複数回活用している。

本実践をとおして、学習指導要領の理解が十分でないことや単元シートを反省・評価まで活用できていないなどの課題が見えた。一方、単元シートを作成したことで教育課程の見直しにつながったり、個に応じた支援がより充実したりするなどの成果が得られた。

② 研究授業

中学部1年～3年(22人)保健体育「持久走」

ア 事前検討会

単元シートを作成する段階で、教育課程と学習指導要領に示されている内容とに隔たりがあることが分かった。本校の教育課程表に示されている「持久走」は、決められた時間を走り続けることで体力を付けることが目標となっている。学習指導要領に示されている内容は陸上競技としての「長距離走」で、長い距離を走ることが目標である。そのため、教育課程と学習指導要領で示されている内容を照らし合わせ、改めて本単元の目標や学習内容について検討を始めた。その結果、本単元を「長距離走」として取り上げ、授業作りを行った。また、目標について捉えを確かめ、校庭を3周走るグループと3分間走り続けるグループに分けた。活動の内容を変えることで個別の目標により迫ることができると考えた。その他、目標を分かりやすくする手立てとして、上位3人はビブスを渡し、自己ベストを更新した生徒には自己ベストシールを渡して称賛することとした。

イ 事後検討会

少人数のグループに分かれ、ワークショップ形式で事後検討会を行った。各グループから出された主な意見は以下の通りである。(○成果▲課題)

視点①一人一人の学びが各教科等の資質・能力の育成につながっているか。

- 上位3位までのビブスや自己ベストシールをもらえることが目に見える目標となり、回数を重ねるごとに頑張る姿が見られ、意欲につながった。
- 活動内容を時間と周数で区切ることで終わり(ゴール)が見えやすく、見通しを持つことができた。
- 走力別にしたことで、実態に応じた指導ができた。
- ▲個別の目標が学習指導要領と合っているか吟味する必要があった。
- ▲目標が分かる視覚的支援がもっとあると良かった。(タブレット端末、写真、イラスト)

視点②その他（主題に関連して、略案形式の改善点など）

- 単元シートの「配慮事項」に細かく書かれており、支援しやすかった。誰が支援に入っても大丈夫だと感じた。
- 計画段階から共通理解し、実際の授業を通して実践的な共同研究になっている。
- ▲設定した段階と手立てが合っていたかが疑問。段階に合った支援の仕方を工夫したい。
- ▲提示にイラストがあるとさらに分かりやすかった。

ウ 授業者の主な感想

- ・走力に応じて3周走と3分走に分けて学習活動を設定したことで、生徒の実態に合わせて授業ができた。今回の授業研究は教師のアドバンテージになると感じた。
- ・目標と手立ての共通理解が学習開始前にできるところが理想的である。早い段階で共通理解ができると、短い単元でも、学習の効果がより高まると感じた。
- ・視覚的に目標が確認できる支援があると、生徒にとって取り組む内容分かりやすくなり、自己記録の更新や達成感につながると思う。
- ・学習内容について、意見交換をしながら取り組むことができた。どの授業にもこの実践をつなげていけるようにしたい。

③ 12月の意識調査

本実践をとおして、単元シートの活用と各教科への意識の向上がみられた。

単元シートを活用した成果については、「以前の略案よりも児童生徒の実態がつかみやすくなった。」「自分が担当している児童生徒以外の目標を見ることができ、他の児童生徒に言葉掛け等もしやすくなった。」などの自由記述がみられた。単元シートの様式に個別の目標や配慮事項があることで生徒の目標を共有し、実態について共通理解することにつながったといえる。

「合わせた指導を行う場面で各教科を意識しているか」については「かなり意識が高まった。」「教科を考える機会が増えた。」という回答が多かった。単元シートを作成することで、育成を目指す各教科の資質・能力について改めて意識する機会になっていると考えられる。

一方で、反省や評価の記入について「目標はしっかり立てているが、それをフィードバックする時間もないし、共有する場面もなかったように思う。」「日常、忙しくて記入まではいかない。」といった記述があった。今後は、反省を共有する機会を設定することや適切に反省や評価を記入する流れを作ることが課題である。

④ まとめ

単元シートを基に協働して授業作りをした結果、教育課程に設定した内容と学習指導要領で示された学習内容に隔たりがあることが分かり、教育課程の見直しにつながった。また、研究授業の授業者が「どの授業にもこの実践をつなげていけるようにしたい。」と感じたように、単元シートのさらなる有用性を学部の全職員で確かめることができた。

一方で、「個別の目標が学習指導要領と合っていたか。」「設定した段階と手立てが合っていたか。」などの疑問は解決されず残ったままである。教員の負担に配慮しながらも、単元シートの活用を機会を広げ、反省や評価まで充実できる協働的な取組を積み重ねることで、学習指導要領の理解を深めたり、教育課程を改善したりすることにつなげていきたい。

(4) 高等部の取組

① 概要

研究主題・副題である「各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫 ―教員間で活用する『単元シート』の作成を通して―」を基に、高等部では「単元シートの効果的

な活用方法の検討」を主眼とした学部研究を行った。また、研究授業の事後検討会を学部全体で実施し、今後の指導の充実に役立てることを目指した。

② 研究授業

高等部3年（8人）生活単元学習「卒業後の暮らしを考えよう（娯楽施設を利用しよう）」

ア 研究授業の方法

単元シートは授業の主に授業を担当する教員（以下「主担者」）のみが作成するのではなく、授業に関わる学年の教員全員で作成する。単元シートを基に計画を作成することを通して、単元において育成を目指す資質・能力と個別に育成を目指す資質・能力を把握し、教員間で指導の工夫について話し合う。

研究授業は校内で公開し、同時にビデオ撮影を行う。研究授業の事後検討会には高等部全員が参加し、授業ビデオを見ながら主担者から活動内容、自評等の説明を受ける。その後、グループに分かれて「単元シートの有用性」という観点からワークショップを行う。

イ 研究授業

9月29日に、生活単元学習「卒業後の暮らしを考えよう」のうちの小単元「娯楽施設を利用しよう」で研究授業を行った。高等部3学年36名を対象とした。11月にある校外学習の学習先を生徒たちで考え、学級ごとにプレゼンし、生徒全員が投票して学習先を決定する活動を行った。授業は感染症対策のため、各教室をタブレット端末でつなぎ、学級ごとにリモートで学習先のプレゼンをした。

ウ 事後検討会

研究授業や授業ビデオを見た上で意見を付箋に書き出し、グループ内の意見を集約させていくワークショップ形式で事後検討会を行った。話し合いの結果として、「教員全員が生徒の個別の目標を事前に把握することができ、手立てを明確にしていくことにつながった。」「生徒一人ひとりの目標が明確なため、学級内のグループワークや役割分担に役立った。」という、単元シートの有効性に関する意見や、「合わせた指導を行う際、各教科の要素がどのくらい入っているかを意識するのに有効だった。」という教科等を意識した実践に関する意見が挙げられた。

③ 12月の意識調査

本項では、12月の意識調査を基に、単元シートの作成に関わった学部の教員の意見を、次のア～エの視点でまとめる。

ア 単元の目標の設定に関して

- ・学習集団によっても、学習指導要領の目標をそのまま設定することは難しい。目標到達をねらいながらも、生徒に合わない学習を設定してしまう授業が増えると思う。

イ 単元の学習における生徒の評価に関して

- ・生徒が目標に到達することを前提に学習を計画しているので、評価といっても生徒ではなく教師側の評価になってしまうのではないか。
- ・反省を記入したものを教員間で共有しているのかが分からない。
- ・個別の指導計画提出前に合わせて評価している。

ウ 合わせた指導における教科の意識に関して

- ・教科を整理していく過程で合わせた指導が見通され、そこで改めて気付かされた。
- ・教科等から目標を設定すると理解しやすい。

エ 取組に関する感想

- ・授業の計画を立て、内容を検討し、教員間で共有して個別の教材を準備して実施するので精一杯である。個別の目標を単元ごとに記載するのはとても骨が折れる。学習集団によっては、目標が似ている生徒もいて、あまり必要性を感じなかった。もちろん、特別支援学校なので個別の目標を立てて然るべきと思う。しかし、毎日次々と実施しなくて

はいけない授業がある中で目標の検討だけに割く時間はないので、できるだけ簡易な様式にしてほしい。

- ・単元シートがなくても、生徒の実態を踏まえて、教員間で連携はとれていると思う。個別の学習目標や個に応じた支援の内容は、単元が始まる前に確認するものだと思っている。

以上のことから、各教科等の目標や内容を踏まえて実践を工夫する意識が高まってきた一方で、学習集団に合わせて目標を設定したり、生徒の学びの様子を適切に捉えて評価する方法に戸惑いや負担を感じている教員がいることが分かった。

④ まとめ

上記の研究主題を設定して初年度の取り組みになる。次年度も、単元シートの有用性について学部全体で検証し、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫を行っていくよう、実践を積み重ねる必要がある。

また、多くの教員が単元シートの作成に関わったが、実践の初年度ということもあり、授業の担当者として中心になって作成する教員は少なかった。次年度は、単元シートの作成が育成を目指す資質・能力の確認や生徒の実態に応じた指導の工夫、ひいては授業の質の向上につながる実感ができるように、一つひとつの取り組みを校内に共有していきたい。

3 調査分析・環境整備（研究部）

(1) 校内研修の実施

① 「新しい学習指導要領の理念」について（5月1日：教育課程委員会と連携）

「各教科等の学びの文脈で身に付く資質・能力」「児童生徒の調和的な発達に向けた各教科等の指導」「多様な学びの場の連続性を踏まえた指導」「私たちが蓄積してきた実践を大切にしていくこと」の4点をスライドにまとめて研修し、教員間の共通理解を図った。研修会後のアンケートには、「新しい学習指導要領の変更点や変更した理由を知ることができた。」「私たちの考え方を改めていく必要を感じた。」など感想があった。

② 「単元シート」について（5月31日）

個別の指導計画の作成や教育課程の改善と関連して、学習指導要領で示された学習目標や内容の三観点を踏まえた実践が大切なことや、単元で設定した目標の中で児童生徒一人一人の当該段階の目標を設定することが求められていることを確認した。その上で、先述した単元シートに記載する7つの項目について確認した。

(2) 意識調査

① 目的

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導に関する教員の意識を調査分析することで、単元シートの有用性の検証や校内研究の推進のための参考とする。

② 実施期間と対象者数

ア 事前調査：6月9日～6月30日、対象者58人

イ 事後調査：12月14日～12月25日、対象者64人

③ 調査分析と考察

「単元の目標は、何の教科のどのような力を育成することにつながるかを踏まえて設定できていると思うか」という設問では、「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合が約25%増加している（図4）。自由記述欄には、「教育課程を参考にした」「教科を意識して設定するようになった」という記述や、「目標が適切か迷ったり、考えるようになった」「本当に理解して設定できている自信がない」などの記述があった。単元シートの作成は、教育課程で設定している目

標と学習指導要領で示された育成を目指す資質・能力の関連について考える機会を持つことにつながると考察できる。

設問 1

単元の目標は、何の教科のどのような力を育成することにつながるかを踏まえて設定できていると思いますか。

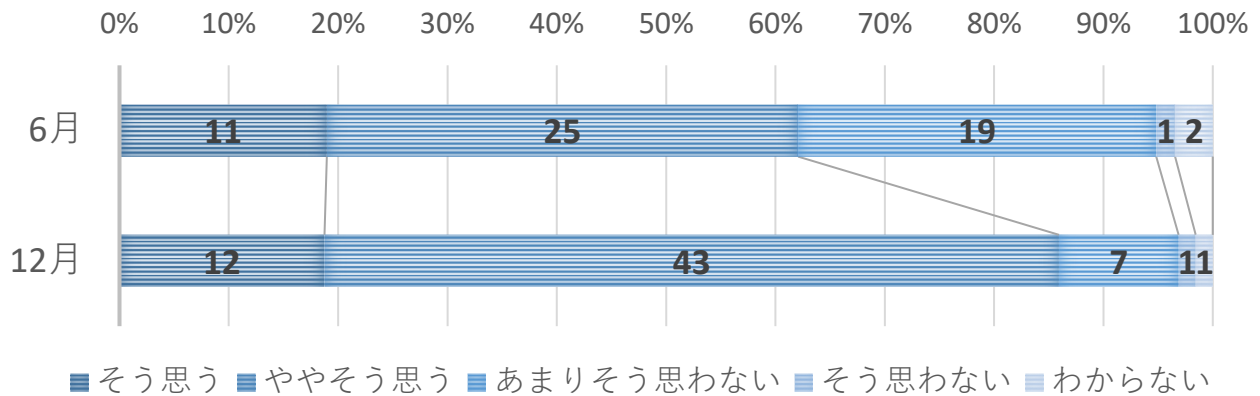


図4 設問1：6月と12月の比較

「単元の学習を展開する上で、児童生徒の個別の目標は教員間で共有できていると思うか」という設問では、「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合が10%以上増加している(図5)。自由記述欄には、「様々な児童生徒の目標を共有できた」「教員間で目標について話し合う機会が持てた」という記述がある一方で、「負担が大きい」「話し合う時間が少ない」という記述があった。また、「単元シートに記載しなくても個別の目標は共有できている」「児童生徒の目標が似ている際は、単元ごとに個別の目標を立てるの必要性を感じない」という記述があった。これらのことから、単元シートの役割を明確にした上で、教員の負担感に配慮しながら、単元シートの効果的な活用方法を継続して検討していく必要があるといえる。

設問 2

単元の学習を展開する上で、児童生徒の個別の目標は教員間で共有できていると思いますか。

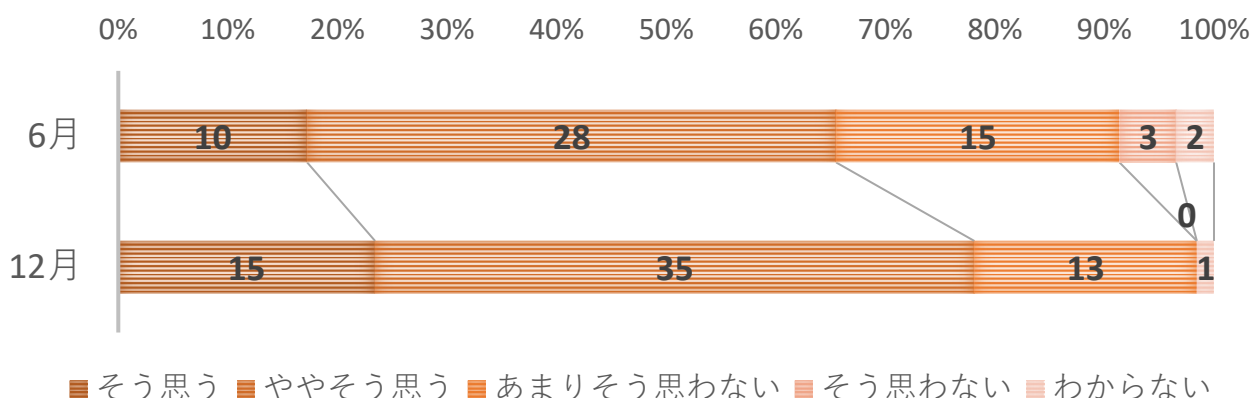


図5 設問2：6月と12月の比較

「単元を通して、児童生徒に何の教科のどのような力が身に付いたかを踏まえて、評価や反省ができているか」という設問では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が15%以上増加した。自由記述欄には、「評価まで教員間で共有できなかった」「教科の内容を意識して評価できなかった」という記述があった。これらのことから、各教科等の資質・能力を踏まえた反省をする意識が高まったものの、単元の指導を振り返る機会を十分に確保できなかったことが

分かる。また、「3観点で評価することが難しい」「単元の反省の書き方を悩んだ」など、学習評価の方法や単元の指導を振り返る観点について戸惑いを感じている記述もあった。評価に関する校内研修を充実させる必要があるといえる。

設問3

単元を通して、児童生徒に何の教科のどのような力が身に付いたかを踏まえて、評価や反省ができていますか。

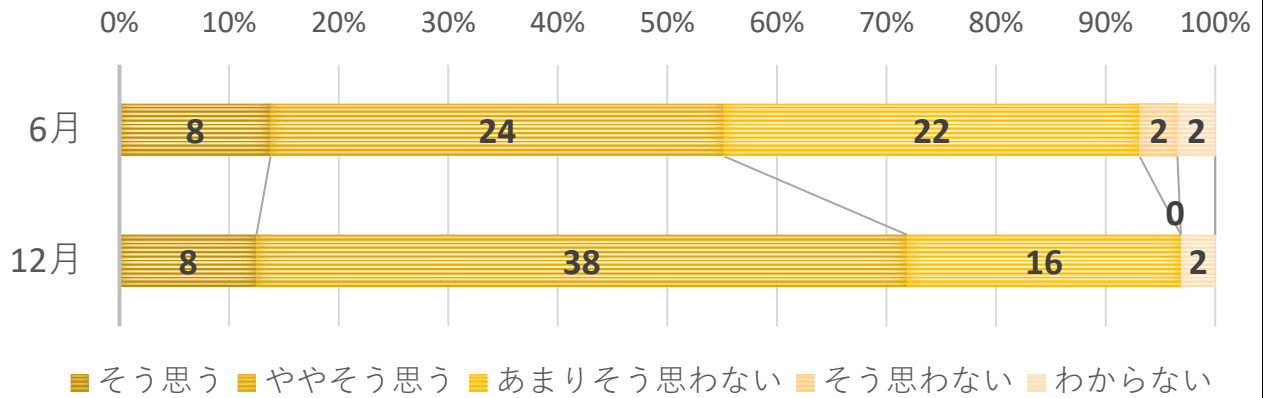


図6 設問3：6月と12月の比較

「日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導や作業学習を展開する上で、何の教科を合わせて指導しているかを意識できていると思うか」という設問では、6月と12月では、顕著な変化は認められなかった。自由記述欄には「教科に対する意識が高まった」や「教科の内容を十分に意識できていない」など、様々な記述が混在していた。資質・能力の育成に向けて実践しているものの、教育課程が十分に整っていないため、教科等を合わせた指導について、教員によって様々な捉え方をしているといえる。

設問4

日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導や作業学習を展開する上で、何の教科を合わせて指導しているかを意識できていると思いますか。

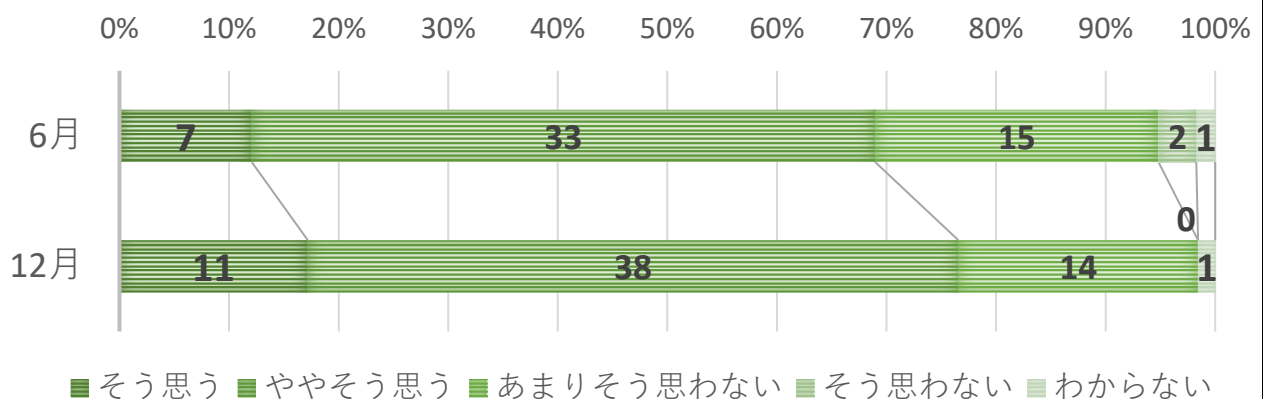


図7 設問4：6月と12月の比較

(3) 研究通信の発行

今年度、研究通信を28号発行した(2月10日現在)。単元シートの記入例や単元シートを活用した実践の共有、校内研究の取組に関連する文献の紹介など、様々な教育情報を発信した。教員による学校評価には「研究通信の発行が校内研究の推進に役立っていた」という意見があった。研究通信の主な内容は表1のとおりである。なお、本研究紀要の資料として、研究通信を添付する。

表1 研究通信の主な内容

No.	発行日	主な内容		発行日	主な内容
1	4/15	第一回全体会	1 5	10/19	季刊誌「特別支援教育：秋」の共有
2	5/18	個別の指導計画の説明会	1 6	11/9	高等部研究授業・検討会
3	5/20	単元シートの様式検討過程	1 7	11/11	体育「ボール運動」の実践共有
4	6/1	季刊誌「特別支援教育：春」の共有	1 8	11/20	学習評価と単元の反省
5	6/12	単元シートの説明会	1 9	11/27	遊びの指導と教科等の資質・能力
6	6/26	小学部研究授業事前検討会	2 0	12/9	生活単元学習と教科等の資質・能力
7	7/10	小学部研究授業	2 1	1/6	中学部研究授業・検討会
8	7/15	小学部研究授業事後検討会	2 2	1/7	事後意識調査の結果1
9	7/16	季刊誌「特別支援教育：夏」の共有	2 3	1/7	事後意識調査の結果2
10	7/31	単元シートを活用した教員の声	2 4	1/7	事後意識調査の結果3
11	7/31	事前意識調査の結果	2 5	1/7	事後意識調査の結果4
12	9/8	国語「聞くこと・話すこと」	2 6	1/12	研究の公開に意見の取りまとめ
13	9/16	第二回研究推進委員会	2 7	1/22	季刊誌「特別支援教育：冬」の共有
14	10/5	単元シートの活用状況	2 8	2/2	第二回研究全体会の案内

(4) 環境の整備

職員用掲示板の整備（図8）、教育図書コーナーの新設（図9）、印刷室に校内研究コーナー（図10）を作成するなどして、教員が校内研究の取組に触れる機会を多く持てるようにした。



図8 職員用掲示板に校内研究コーナーを設置



図9 教育図書コーナーの新設



図10 高等部印刷室に校内研究コーナーを作成

Ⅷ 研究のまとめ

校内研究の主な成果と課題は以下のとおりである。

1 成果

(1) 単元シートの様式を作成（研究部）

構成や内容を検討して、学習指導要領で示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて指導を工夫するための、「単元シート」の様式を提案することができた。

(2) 授業研究（各学部）

- ① 各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて、単元の目標設定や評価・反省をする意識が高まった。
- ② 育成を目指す資質・能力を踏まえた個別の目標を設定し、単元シートに記載した上で実践することは、教員間の連携や個に応じた支援につながる事が分かった。
- ③ 9割以上の教員が単元シートの作成に関わった。全員参加型の共同研究に向けた取組を促進できた。

- ④ 感染症対策のため、実践する期間や状況が制限されていたにも関わらず、各学部の実情に応じた授業研究を行うことができた。また、単元シートを活用した研究授業が教育課程の改善につながった実践を共有することができた。

(3) 調査分析・環境整備（研究部）

- ① 研究通信を28号発行した。他の学部の研究授業や単元シートを作成・活用した実践について共有できた。また、単元シート作成・活用の一助となるように、教育書籍や文部科学省の資料などを紹介できた。
- ② 職員用掲示板や教育図書コーナーを活用し、校内研究に関する情報を発信することができた。

2 課題

- (1) これまで以上に、児童生徒一人一人に応じた指導が求められていることが明らかになってきた。単元シートを活用することにより、個別の目標を明確にして単元や題材の学習内容を検討する意識が高まってきた。同時に、当該の各学年と当該各学年より前の各学年の内容を踏まえて学習内容を設定する難しさも明らかになってきた。学習内容や教材の設定などについて、研修を積み重ねていきたい。
- (2) 単元シートの活用により、教育課程の見直しや個別の指導計画の改善が期待できるが、その役割や活用方法を明確にできなかった。意識調査からは、今年度、個別の指導計画の様式が新しくなったことで、目標設定や評価の記入方法に戸惑っているため、単元シートの目標も明確に設定できないと感じていることが分かった。単元シートの役割を明確にした上で、教務部や教育課程委員会など校内の組織と連携しながら、校内研究を推進していきたい。
- (3) 単元シートを活用した実践の蓄積が課題である。意識調査から、多くの教員が単元シート全体でなく、一部を作成したことが分かった。したがって、単元シートの様式の改善点や効果的な活用方法を十分に検討するまでに至らなかった。また、学部の実情に応じた取組を進めることができた一方で、各学部の取組を十分に共有できないこともあった。単元シートは、個に応じた具体的な目標設定や形成的評価につながるメモ欄の記入など、発展的な活用が期待できる。さらなる有用性を検証するためにも、単元シートを活用する機会を広げていきたい。
- (4) 単元シートの作成する際の、負担感を軽減することが課題である。意識調査から、学習指導要領の内容を踏まえ、単元シートの全ての項目を記入することが負担になっていることが分かった。また、指導内容や指導場面によっては、多数の個別の目標を単元シートに記入することが困難な場合もある。単元シートの記入の方法や活用の機会を工夫していく必要がある。
- (5) 単元シートの協働的な作成が課題である。それぞれの業務を抱えながら、チームティーチングを行う教員間で、目標の確認や単元を振り返る時間を持たない現状があった。様々な校内の機関と連携した上で、単元シートを効果的に活用しながら、学習指導に力を注ぐ環境を作っていきたい。

【主な参考文献】

[1] 宮城県立石巻支援学校：「令和元年度研究紀要」	2020
[2] 文部科学省：「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」	2017
[3] 文部科学省：「文部科学省：特別支援学校高等部学習指導要領」	2019
[4] 中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」	2018

《資料》


1 学部研究の単元シート

小学部 5 年	遊びの指導	「ルールのある遊び」
中学部 1 年～3 年	保健体育	「持久走」
高等部 3 年	生活単元学習	「卒業後の暮らしを考えよう」

【単元シート（保存用）】 小学部5年 「ルールのある遊び」指導計画

指導形態/教科・領域	遊びの指導	関連行事等	時数	8	期間	6月19日～7月16日	記入者（TT）	色川（武川・齋藤・寺門）
------------	-------	-------	----	---	----	-------------	---------	--------------

単元の目標	育成を目指す主な教科等の資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> 簡単なルールのある遊びに親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【生】きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
<ul style="list-style-type: none"> 簡単なゲームのルールが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【生】日常生活の遊びで、友達と関わりを持ち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとする。 【算】数の数え方や数の大きさの比べ方について考え、学習や生活で生かすこと。 【国】自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。
<ul style="list-style-type: none"> 友達の活動の様子を見たり、教師や友達と関わったりし、みんなと一緒に活動することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 主（上記を主体的に学び、生活に生かそうとする態度を養う。）

時数	日付	主な学習内容	○手立て ・留意点	技能
活動の流れ		1 始めの挨拶 2 ウォーミングアップ ①アタック ②健康道場 3 おはなし 4 ゲーム 5 振り返り 6 片付け 7 終わりの挨拶	○活動の流れを掲示して確認しながら進めることで、活動に見通しがもてるようにする。 ・勝敗があること、友達と仲良く活動すること、勝っても負けてもみんなが楽しめるようにすることも大切なルールであることを確認する。 ○ウォーミングアップの「アタック」では風船打ちをし、準備運動を兼ねる。「健康道場」では、幅30cmのビー玉足つぼシート上を歩く。車椅子の児童は卵パックシート上を通る。 ○片付けの場面では、自主的な行動を促す。 ○重複児童は、できる動きを生かした取り組みを工夫する。使用する物（カラーボール等）も工夫する。 ・児童の良い行動を称賛し、次への活動意欲につなげられるようにする。	生算国
				
2	19日 23日	①ストラックアウト	・一人でボールを投げる。当てた数字の数字を得点にする。 ・一人1回、当たるまで投げる。児童の実態に応じてまでの距離を調整したり教具を工夫したりする。	生算国
2	30日 2日	②玉すくい	・一人で運ぶ。カラーボールを運んだ数を得点にする。 ・ざるを両手で持ってカラーボールをすくい、折り返し地点を往復する。	生算国
2	7日 10日	③ボール運び	・二人で運ぶ。カラーボールを運んだ数を得点にする。 ・ボールを両手で取ってタオルに乗せ、二人で両端を持って折り返し地点を往復する。 ・①～③でもっとやりたいゲームを聞く。（10日）	生算国
2	14日 16日	アンコールゲーム ・やりたいゲームをもっと ・まとめ	・①～③で児童の希望が多かったゲームを行う。 ○写真やイラストを提示してこれまでのゲームを振り返り、楽しかった活動を発表する。（16日）	生算国

個	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄（配慮・具体的な姿など）
A	知 生小2	遊ぶ順番やルールがあることを理解する。	◎	○	生：場の設定が整うと活動→1番目にして配慮→異なる順番に発展させたい
	思 生小2	教師の援助を求めながら、カラーボールをすくったり、運んだりすることを楽しむことができる。	◎	○	算：一緒に数唱→数の比較することに気付ける？ 国：自分が頑張った「健康道場」のカードを選択して発表◎
B	知 生小3	片付け方や片付ける場所が分かり、自分から進んで片付ける。（主）	◎	◎	算：「全部で9個だから、（こっちの方が）4個多い。→比較算：「今日は、引き分けだね。」→比べて、生かす 生：仲良く→上手にできない友達を助める→自活と関連（アタックコントロール、伝え方） （人へではなく、マスクにできた→さらに良い手段を一緒に考える）
	思 生小3	ボールが多い方が勝ちというルールを分かって遊びを工夫する。友達のペースに合わせながら、仲良くボールを運ぶ。	◎	◎	生：友達が片付けるのに気付けて自分から→場所の明示が必要 生：ゲームの順番表を見て、ざる（パトン）を受取・渡す→自分で行動◎ 算：「どっちが多い」が課題。→個別の算数で扱う。
C	知 生小3	片付け方や片付ける場所が分かり、自分から進んで片付ける。（主）	◎	◎	
	思 生小2	カラーボールやざるなどの道具を友達と共有しながら楽しく遊ぶ。	◎	○	
D	知 生小3	順番を守ったり友達と交代したりするなどの約束が分かる。	◎	○	欠席
	思 生小3	片付け方や場所が分かり、進んで片付ける。	◎	○	
E	知 生小1	つかんで放したボールや発射台から放たれたボールが的に当たる様子を見ながら遊びに関心を持つ。	◎	○	玉すくいでは、風船を入れたくす玉を用意した。くす玉を引っ張る様子や落ちてくる風船の様子を他の児童も一緒に見られるように待機している児童の方を向いてくす玉を引っ張るようにした。
	思 生小1	的に当たったボールの様子やゴールまで運ぶことができたときの友達や教師の様子を見て遊びを楽しむ。	◎	○	
F	知 生小2	ざるやタオルを両手で持ち、折り返し地点を回ったらすぐに戻って、決められた入れ物にカラーボールを入れることが分かる。	◎	○	玉すくい：ざるを受け取ったらすぐに歩き出した。ゲームの流れが分かったのだと思う。
	思 生小2	使った物を指示された場所に片付ける。	◎	○	
G	知 生小3	順番や交代、ざるですくうなどのルールが分かる。	◎	◎	「どんまい」など、友達を思いやる言葉が自然にでてくる。玉すくいは教師の師範、友達の活動を見てやり方が分かり、一連の流れが1人でできた。
	思 生小3	片付け方や片付ける場所が分かり、進んで片付ける。	◎	◎	
H	知 生小1	ボールを投げたり運んだりして遊び方に関心を持つ。	◎	○	ストラックアウトでは、ボードに興味を示し自分からウォーカー近づき、キラキラのボールを持ってゴムを引っ張り、ボードに当てることができた。
	思 生小1	カラーボールに興味を示し、触ったり手に取ったりする。	◎	○	
I	知 生小1	教師と一緒にボールなどに触れて遊びに関心を持つ。	◎	○	寝ていることが多く、歌を歌って目を覚まして参加できるようにできるだけしたい。指の自発的な動きを引き出したい。
	思 生小1	安定した気持ちで、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとする。	◎	○	

単元の反省（学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から）
<ul style="list-style-type: none"> 順番を守ってスムーズに活動できるようになったものの「競争」や「勝ち負け」など、さらに味わえる学習内容を検討していきたい。 数量や順番を視覚化できたことが効果的だった。 学部の研究授業や授業参観と関連させて、予定より時数を増やして実施した。回数を重ねることで、児童が自分から学習に参加する機会が増えてきた。 3名の医療的ケアの必要な児童や肢体不自由の児童も単一障害の児童も学習の機会を十分に確保できる形態は、今後も検討していく必要があると感じた。

学習評価	知	思	主
	【生】写真で順番を表示し、繰り返し遊びを楽しむ中で、順番を理解して遊びを楽しむ姿が多く見られるようになった。勝ったときや負けたときの態度もルールとして明示したことで、仲良く遊ぶことができるようになった。	【生】カラーボールを赤・青に分け高さを比べることで、たくさんボールを運べるように工夫する姿が見られるようになった。友達と関わりを持つ機会を十分に作ることはできなかった。 【算】数量を高さを表現することに慣れてきた様子がある。他の学習や生活の場面と意図的に関連させていく必要がある。 【国】学習を振り返る場面を設定し、実態に応じて絵カードや実物、言葉カードなどを提示することで、思いを発表することができていた。自分の考えとの相違など確かめる機会を持てるとさらに良かった	【生】ルールを簡単にすることで、児童が少ない支援で遊びに参加することができるようになった。 【生】用具を片付ける場所を明示・固定することで、児童は進んで片付けを行うようになった。

【授業シート】小学部 5年「ルールのある遊び」(7月2日 4校時 学習計画)

本単元に関わる児童の実態及び単元について							
<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗について強い意識を持つ児童が1名、勝敗の理解が難しい児童が8名である。勝敗があるルールを設定することで、勝ち負けがあることが分かり、勝っても負けても楽しく活動できるようになってほしい。 ・本単元では、1名または2名ずつ行う順番のあるゲームを通して、チームで力を合わせて取り組んだり、友達の活動の様子を見て楽しんだりして自分と他者との関わりを感じられるようにしたい。 ・使用した物の片付けまでを学習ととらえて指導することで、普段の生活場面にも生かせるようにしたい。 							
本時の目標(4時間目/8時間扱い)				本時に関連する主な育成を目指す資質能力			
・ルールを守って、みんなでゲームを楽しむ。				【生】日常生活の遊びで、友達と関わりを持ち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。			
T1	色川	T2	武川	T3	寺門	T4	齋藤

学習活動(時間)	○手立て・留意点	準備物等
1 挨拶 2 ウォーミングアップ ①アタック ②健康道場 3 おはなし	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手洗いをし、集合場所では左右の間隔を空けるようにする。 ・姿勢を正して挨拶をするように言葉掛けをする。 ・楽しく学習に取り組めるように、場の雰囲気盛り上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ①風船を児童と打ち合い、軽い準備運動を兼ねる。 ②足つぼシートを並べる。上靴を脱ぎ、30cm幅からはみ出さずに歩くよう言葉掛けをする。(車椅子児童は卵パックシート) ・みんなが楽しく遊ぶために大切なことを確認する。 (順番を守る、友達を応援する、勝っても負けても楽しく) 	<ul style="list-style-type: none"> ・風船、BGM ・足つぼシート、卵パックシート、BGM
4 ゲーム 「玉すくい」	<ul style="list-style-type: none"> ○イラスト提示などの視覚的な支援をしながら、本時のゲームについて説明をしたり、実際にやって見せたりして理解を促す。 ・二つのチームに分かれて活動する。(7月2日は6名の予定) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 青チーム【T2(T4) A G B】 赤チーム【T3(T4) I F C】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前回(玉すくい)のゲームについて振り返り、ルールを確認する。 ①ゲームをする。 ざるでボールを1回すくう→歩いて運ぶ→かごに入れる→ざるを渡す ※運んだボールはみんなで数え、教員が比べ棒に貼り付ける。 ※多くボールを運んだチームの勝ち。(こぼしたボールは除外) ②結果発表 ③万歳三唱と特別特訓 勝ったチームは万歳三唱。負けたチームは足つぼシート上を歩き、健康第一で今後も頑張るようにみんなでエールを送る。(車椅子児童は手つぼシート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム、ルールのイラスト ・順番表 ・ざる、ボール入りのかご、空かご、比べ棒 ・足つぼシート、手つぼシート
5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームのイラストと気持ちカードを提示し、場面を選んで頑張ったことや楽しかったことを発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラスト、気持ちカード
6 片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けの自主的な手伝いを促す。 	
7 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、2人ずつ順番に行う「ボール運び」をすることを予告する。 	

本時の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・順番については、Aのやる気を大切にするため1番にした。BとCには、あと何個ボールをすくえば勝ちなのかに気づいてほしいため最後にした。今回引き分けだったが、Bは勝ちにこだわることなく受け入れていた。Cは、これまで勝ちにこだわることはなかったが、本授業ではたくさんボールをすくおうという意思が感じられ、成長を感じた。Aは、苦手な「足つぼシート」にも、自分から拳手して取り組んだ。 ・重複児童は、くす玉を使い風船を落としてキャッチする活動を楽しみ、みんながその様子を見て応援できたことがよかった。他のみんなと同じやり方でなくても、重複児童が楽しみながらできるやり方でよかった。 ・ゲーム結果について、どっちが多いかを児童に考えてもらおうとすることにこだわりすぎたかもしれない。「遊びの指導」としての活動なので、望む反応が得られなくても、担任が「多い、少ない、同じ」の考え方を教えていけばいいと思った。それを積み重ねていけばいいと思った。 ・どの児童も楽しそうな様子が見られ、順番やゲームの手順を守って活動できた。本時の目標は達成できたと思う。 ・児童の待機場所から見える場所にチーム分けと順番を示しておいたことで、児童も担任も分かりやすかった。 ・授業を予定通り進めようとして、児童の反応を待ったり引き出したりということがおろそかになってしまったように思う。児童の反応を見ながら、よりよい方向に学習を進めていけるように今後はしたい。 ・ゲームのやり方は理解できたと思うので、次回は2チーム同時進行で行う予定である。

【単元シート（保存用）】 中学部全学年／グループ 体育「持久走」指導計画

指導形態／教科・領域	保健体育	関連行事等	時数	8	期間	11月4日～19日	記入者（TT）	菅野（佐久間・武山・伊藤・佐藤ま・門馬・赤坂）
------------	------	-------	----	---	----	-----------	---------	-------------------------

単元目標	
<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に合った課題に取り組み、競争したり、記録を高めたりする楽しさや喜びを味わう。 安全に留意するとともに、友だちと協力して取り組む。 	

育成を目指す主な教科等の資質・能力	
知	【体：2段階】陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。
思	【体：2段階】陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
主	【体：2段階】陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動すること。

時	日付	主な学習内容	○手立て ・留意点	教科
1	11/4	1 始めの挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動の確認 4 活動 ①1分間歩行－2分間走－1分間歩行 ②3周走 5 振り返り 6 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に整列する。 ○写真やイラストなど視覚的資料を用いて説明する。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。音楽の切り替えで「歩く」→「走る」が分かるようなりリズム変化をつける。 ○2グループに分けて走る。タイムを測定して次回以降のグルーピングに活かす。 ○記録の累積をしていくことを伝える。 ○上位3名にピブスを渡し、順位を意識させることで、次回への意欲につなげたり成就感を持たせたりする。 	体育
		<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に整列する。 ○前回の順位やタイムを振り返り、記録を意識して取り組むよう促す。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。走る時間は状況に応じて変更する。 ○2グループに分かれて走る。 ○本時の上位3名にピブスを渡し、称賛する。 ○自己記録を更新した人に自己ベストシールを渡し、称賛する。 ○学年毎に記録表にシールを貼って掲示する。 		
2 ～ 8	11/5 9 11 12 16 18 19	1 始めの挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 活動 ①2分歩行－1分走－2分歩行 ②3周走・3分走 5 振り返り 6 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に整列する。 ○前回の順位やタイムを振り返り、記録を意識して取り組むよう促す。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。走る時間は状況に応じて変更する。 ○2グループに分かれて走る。 ○本時の上位3名にピブスを渡し、称賛する。 ○自己記録を更新した人に自己ベストシールを渡し、称賛する。 ○学年毎に記録表にシールを貼って掲示する。 	体育
		<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に整列する。 ○前回の順位やタイムを振り返り、記録を意識して取り組むよう促す。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。走る時間は状況に応じて変更する。 ○2グループに分かれて走る。 ○本時の上位3名にピブスを渡し、称賛する。 ○自己記録を更新した人に自己ベストシールを渡し、称賛する。 ○学年毎に記録表にシールを貼って掲示する。 		

個	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄（配慮・具体的な姿など）
K	知 体中1	合図や音楽に合わせて、歩いたり走ったりするインターバル走に取り組むことができる。			教師の言葉掛けや誘い掛けに応じて、活動に取り組むようにする。
	思 体小2	インターバル走や3周走のやり方に慣れ、頑張ったことを自分なりの方法で表現できる。			
	主 体小3	校庭のトラックを白線に沿って決まった周数走ろうとする。			
L	知	合図や音楽に合わせて、歩いたり走ったりするインターバル走に取り組むことができる。			
	思	上位の記録が出せるように頑張ったことを伝えることができる。			
	主	上位3位までもらえるピブスを目標にして走ることができる。			
M	知	校庭のトラックを3周走することを理解して、一人で取り組むことができる。			
	思	音楽に合わせて、歩くスピードを速めたり小走りしたりすることができる。			
	主	白の線に沿って歩くなどのルールを守りながら、一人でゴールまで走り続けることができる。			
N	知 体中1	合図に応じて、歩いたり走ったりするインターバル走に一人で取り組むことができる。			3位までのピブスがもらえるように励ます。3周走では、歩かず最後まで走ることができるようにする。
	思 体小3	上位の記録が出せるように頑張ったことを伝えることができる。			
	主 体中1	インターバル走や3周走に進んで取り組み、決まった周数を最後まで走ろうとする。			
O	知	校庭のトラックを3周走することを理解して、最後まで止まらずに走り続けることができる。			
	思	教師の言葉掛けに応じて、歩くスピードを速めたり小走りしたりすることができる。			
	主	白の線に沿って歩くなどのルールを意識しながら、ゴールまで走り続けることができる。			
P	知	トラックの白線に沿って走ることができる。			
	思	教師の言葉掛けに応じて、ペースを変えながら歩いたり、走ったりすることができる。			
	主	教師の言葉掛けに応じて、3周走り続けることができる。			
Q	知	校庭のトラックを3周走することを理解して、一人で取り組むことができる。			
	思	音楽の切り替えに合わせて、一人で「歩く」「走る」の行動を変えることができる。			
	主	3位までのピブスをもらえるように、休まずに走ることができる。			
R	知	トラックの線に沿って歩いたり走ったりすることができる。			
	思	教師の言葉掛けに応じて、歩くスピードを速めたり小走りしたりすることができる。			
	主	トラックの線に沿って歩くなどのルールを守りながら、一人でゴールまで歩き続けることができる。			
S	知	教師の伴走や言葉掛けを受けながら、2周程度走り続けることができる。			
	思	合図や音楽の違いに気付き、走ったり歩いたりすることができる。			
	主	スタートの合図を聞いて、自分から走ろうとする。			
T	知	教師の伴走や言葉掛けに応じて、1周程度走り続けることができる。			
	思	合図や音楽の違いに気付き、走ったり歩いたりすることができる。			
	主	教師の誘いかけに応じて、走ろうとする。			

単元の反省（学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から）

学習評価	知	
	思	
	主	

【単元シート（保存用）】 中学部全学年／グループ 体育「持久走」指導計画

指導形態／教科・領域	保健体育	関連行事等	時数	8	期間	11月4日～19日	記入者（TT）	菅野（早坂・阿部・後藤・鈴木・千葉佳）
------------	------	-------	----	---	----	-----------	---------	---------------------

単元の目標

- 自己の能力に合った課題に取り組み、競争したり、記録を高めたりする楽しさや喜びを味わう。
- 安全に留意するとともに、友だちと協力して取り組む。

育成を目指す主な教科等の資質・能力

- | | |
|---|---|
| 知 | 【体：2段階】陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 |
| 思 | 【体：2段階】陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 |
| 主 | 【体：2段階】陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動すること。 |

時	日付	主な学習内容	○手立て ・留意点	教科
1	11/4	1 始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> • 学年毎に整列する。 ○写真やイラストなど視覚的資料を用いて説明する。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。 音楽の切り替えて「歩く」→「走る」が分かるようなリズム変化をつける。 ○2グループに分けて走る。タイムを測定して次回以降のグルーピングに活かす。 ○記録の累積をしていくことを伝える。 ○上位3名にピブスを渡し、順位を意識させることで、次回への意欲につなげたり成就感を持たせたりする。 	体育
		2 学習内容の確認		
		3 準備運動の確認		
		4 活動		
		①1分間歩行－2分間走－1分間歩行		
		②3周走		
		5 振り返り		
		6 終わりの挨拶		
2 ～ 8	11/5 9 11 12 16 18 19	1 始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> • 学年毎に整列する。 ○前回の順位やタイムを振り返り、記録を意識して取り組むよう促す。 ○準備運動は座位→立位で簡潔に行う。 ○音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。 走る時間は状況に応じて変更する。 ○2グループに分かれて走る。 ○本時の上位3名にピブスを渡し、称賛する。 ○自己記録を更新した人に自己ベストシールを渡し、称賛する。 ○学年毎に記録表にシールを貼って掲示する。 	体育
		2 学習内容の確認		
		3 準備運動		
		4 活動		
		①2分歩行－1分走－2分歩行		
		②3周走・3分走		
		5 振り返り		
		6 終わりの挨拶		

種	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄（配慮・具体的な姿など）
A	知 体小3	教師に手を引かれると、3分間止まらずに走ったり歩いたりすることができる。			教師と手をつなぐとトラックの白線に沿って走ったり歩いたりすることができる。自己ベスト賞をもらったときには、笑顔でみんなにメダルを見せるなど、意欲につながっている。後半に走るのには困難。前半の3周走に参加。
	思 体小2	走ったり歩いたりして感じたことや楽しさを伝えることができる。			
	主 体小2	教師から合図を受けたり、手を引かれたりすると、走ろうとする。			
B	知 体小3	教師の言葉掛けや並走などの支援を受けて、歩いたり走ったりすることができる。			一定のペースで歩くことはできる。走る場面でコースアウトすることが見られる。併走することで白線に沿って走ることができた。
	思 体小2	音楽に合わせて歩いたり走ったりすることができる。			
	主 体小2	トラックの白線を意識しながら、教師と一緒に走ることができる。			
C	知 体小2	教師の誘導などの支援を受けながら、歩いたり走ったりすることができる。			スタートすると「追いかっこ」を思い出し、思いのままに走り出してしまふ。教師が併走する場面でも、立ち位置を考える必要がある。応援を受けて意欲的に走る場面が見られた。
	思 体小2	音楽を合図に教師と歩いたり走ったりすることができる。			
	主 体小1	トラックの直線などの一定の距離を教師の補助を受けながら走ることができる。			
D	知 体小3	ゆっくりなスピードで3分間止まらずに走り続けることができる。			勢い良く走り出し、ある程度走ると止まってしまう。一定の時間や距離を一定のペースで走り続けることができるようにしたい。
	思 体小2	トラックの白線に沿って、一定の早さで走り続けることができる。			
	主 体小3	友達と走ることを楽しく感じながら、長距離走に取り組むことができる。			
E	知 体小2	コギーに乗って、足こぎをして、直線を進むことができる。			コギーで自走できるようになり、長い時間足こぎを続けることもできるようになってきている。
	思 体小2	踏み出すときに一度ペダルを戻してその反動でスタートすることができる。			
	主 体小3	友達の走る姿を見ながら、自分も足こぎをすることができる。			
F	知 体小3	笛の合図や音楽を聴いて、歩いたり走ったりすることができる。			勢いよく走り出すが持続せず、自分走りやすいペースを見つけて今後の課題。
	思 体小3	ペースを保ち、3周走り通すことができる。			
	主 体小3	白線の外側を意識して歩いたり走ったりすることができる。			
G	知 体小1	教師の言葉掛けや、誘導を受けて、歩いたり走ったりすることができる。			気持ちのよるよう、言葉掛けをしたり、音楽に合わせて拍手をしたりして、歩いたり走ったりすることを誘導した。
	思 体小1	音楽を聴いて、楽しい気持ちで取り組むことができる。			
	主 体小1	教師と一緒に白線に沿って、歩いたり走ったりすることができる。			
H	知 体小2	言葉掛けや動き出しの支援を受けて、3分間の中で2周走ることができる。			目線が下向きになりがちなので、前方や周りの様子を見て活動することを言葉掛けする。背中を軽く押すことや手を引くなど走り出すきっかけの動きを支援する。走り出した後は、2m程度前方を併走しながら励ましを行うと運動を継続しやすい。
	思 体小2	友達の様子を見たり、音楽の変化を感じたりして運動を変えることができる。			
	主 体小2	終了の合図があるまで止まらずに走ったり歩いたりすることができる。			
I	知 体中1	自分の走るペースを保ちながら、止まらずにトラック3周を走ることができる。			前に人がいて止まりそうになった時に、追い抜くように言葉掛けをしたり、自分のペースで走るようにアドバイスしたりすることで、止まらずに走りきることができるようにする。
	思 体小3	白線に沿って走ったり、前に人がいるときに外側から追い越したりすることができる。			
	主 体小3	称賛することでタイムを伸ばそうと意欲を持つことができる。			
J	知 体小2	名前を呼んだり、「いち、に」と言葉掛けをしたりすることで、できるだけ長い距離を走ることができる。			本人の様子を見ながら、励ましの言葉掛けをすることで、走ることへの意欲を持ち続けるようにする。
	思 体小2	称賛の言葉掛けをすることで、意欲的に走ることができる。			
	主 体小2	教師や友達と一緒に、白線に沿って楽しく走ることができる。			

単元の反省（学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から）

- 学習内容として、持久走的にも長距離走的にも盛り込むことができたのは、生徒の実態に合わせられる教師側のアドバンテージになると感じた。同時に、目標と手立ての共通理解が学習開始前にできるのが理想的だし、早い段階でそれが可能になると、短い単元ではあるが、学習の効果もより期待できるのではないかと感じた。
- 目標の視覚的な認識が生徒・教師ともにできるような方法を考えていければ、毎時間の取り組みが生徒にとって分かりやすくなり、自己記録の更新や達成感につながると思う。
- 学習形態等について、意見交換をしながら取り組むことができ、今回の単元・授業実践を通して自分の引き出しが広がっていく感じを得られたことは嬉しい。どの授業にもこの感覚をつなげていけるようにしたい。

学習評価	知	学習を繰り返す行うことで、速く走る、長く走るという技能を身に付けながら、走る楽しさを感じることができたように思う。「歩く」と「走る」の違いをシンプルに理解し、取り組んでいくことができてきた。
	思	言葉掛けによって課題を解決するための取り組みができていったと思う。記録や取り組みの様子を踏まえて考えることが生徒と一緒にできていくとさらに達成に近づいていけるのではないかと。
	主	記録の変化をピブスやシールで視覚化できたことで、積極的に取り組む様子が見られた。友達を意識して走ることが決まりや安全の意識につながり、自発的な応援にもつながっていたことは目標の達成に近付けたと思う。

指導形態/教科・領域	生活単元学習	題材・単元	卒業後の暮らしを考えよう	時数	3	期間	9月28日, 29日	記入者(TT)	齊藤博(3学年全担任)
------------	--------	-------	--------------	----	---	----	------------	---------	-------------

単元の目標		育成を目指す主な教科等の資質・能力	
友達の健康状態や現在の社会状況も考慮して、学年のみんなで楽しめる施設を決める。		知	・【情報】身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを知り、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。
身近にある情報機器を活用して、友達と一緒に利用する施設を調べる。		思	・【社会】生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。
声の出し方や視線などに気を付けて、相手に伝わるように発表する。		主	・【国語】相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
			・【家庭】健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。
			(上記を主体的に学び、生活に生かそうとする態度を養う。)

時	日付	主な学習内容	〇手立て・留意点	教科
1	9月28日3校時	・校外学習で行ってみたい娯楽施設や観光地を学級内で考える。	○ipadを使用して調べるように促す。 (学級に生徒用3台, 教師用1台準備) ・学年には様々な友達がいることを想起できるように話し、自分だけでなくみんなが楽しめる所を考えるように働き掛ける。★ ・新型コロナウイルスのことも考え、感染者の多い山台や人が密集する観光地は避けることを話す。★ ・古川や利府から本校に3年間通った友達が、卒業後に石巻周辺のことを思い出せるような場所になればという教師の願いを話す。★	情 社
2	9月29日3校時 研究授業	・学級の案を決めて、学年のみんなに発表する準備をする。 (色画用紙に写真を貼る、発表原稿をつくる、発表練習をする。)	○前時で出た行き先候補の中から、主な場所のカラー写真を教師が準備しておく。 ・その場所を選んだ理由が、はっきり分かるような発表内容にするように促す。 ・リモート形式で発表することを伝え、他学級の生徒が理解しやすいように画用紙には文字を大きく書くよう働き掛ける。(例 紙芝居形式など) ・発表時間は5分以内とする。	社 国
3	9月29日4校時 研究授業	・学級ごとに行き先提案を発表する。 ・発表を見て良いと思った案に〇を付ける。(投票) ・各学級から1名、代表が1組前廊下に集まり開票する。 ・多数決で校外学習先を決定する。	○発表の前に学級名が入った投票用紙を配付し、「みんなで行きたい」と思った学級の案に〇を付けるよう話しておく。 ・第1時に確認した★の留意点について記入してある投票用紙にすることで、目的に合った場所を選択できるようにする。 ・T1が進行し、学級の代表者と一緒に開票していく。リモート形式で各学級がその様子をリアルタイムで見られるようにする。 ・決定しても、新型コロナウイルスの状況によっては実施できないこともあることも話しておく。もし中止になっても、このように考えたことは卒業後に余暇を過ごす際に役に立つ学習であったことも付け加える。	国 家

単元の反省(合わせた教科・学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)	
・教育課程では小単元「娯楽施設を利用しよう」には、事前学習が設定していなかったため今後もこのような形式をとるならば時数や指導形態の見直しが必要である。	
・ipadを使用してどの程度検索できるのか、前週の朝や帰りの会で2日間「北海道 名所」「沖縄 特産」などと調べる機会を設けた。授業に向けて、実態把握をすることができて良かった。	
・授業のねらいとは直接関わりはないが、リモート形式で発表することを取り入れた。学年にICTに通じている先生が所属しているため、協力体制があり良かった。また、生徒(特にB課程)が喜んでおり、今後の多様な発表スタイルの先駆けになったかもしれない。(バタバタして生徒には申し訳なかったが、一辺通り、学級ごと前に出て発表するよりも新鮮だった。)	
・発表原稿について、2組は教師が準備をした。もっと時数があれば、生徒達にせりふを考える時間を与え、自分の考えた言葉で話すことができたと思う。どこに重きを置いたかが悩みどころである。	
・合わせた指導の中にも含まれる教科について、どの教科にスポットを当てるとかは、個々の生徒、授業計画を立てる教師、個別に教える教師それぞれで思いが異なることが分かった。(あえて、教科名を絞らないで個別の目標を立て、それぞれが紙媒体に書いて提出したことで見てきた。この単元シートの個別の目標を書く作業をやってからどう指導支援しようか考えるのと、全く教科を意図しないで単元の授業をするのでは大きく成果が異なると感じた。)	

日	教科	個別の目標	◎達成 ○概ね達成 △達成できない	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)
A	知 情報高1	iPadを活用して、必要な情報を収集する。	◎		・どんな所に行きたいかKMとAMに気を配りながら、iPadで情報を収集することができた。 ・(発表の日は通院のため欠席)
	思 国語高1	調べたことを相手に伝わるように発表する。			・iPadの画像を見ながら、「マンガ館に行ったことがあるので、サンファン館に行ってみたいです。」と身近な施設を知ることができた。
B	知 社会中1	学級の中で相手の意見を聞くことを通して、身近な公共施設について知る	◎		・「渡波駅からたった5分で着く」という点について、与えられたせりふを練習し画面に向かってはっきりと話すことができた。
	思 国語小3	簡単な台詞や決まった言い方を使って、相手に伝わるように話す。	◎		・自分の学級では、サンファン館に行きたいと発表したが、4組のプレゼンを見てマンガ館に行きたいと決めることができた。
B	知 社会中1	学年の友達の発表を見て、多様な公共施設があることを知る。	◎		・「渡波駅からたった5分で着く」という点について、与えられたせりふを練習し画面に向かってはっきりと話すことができた。
	思 国語中1	相手の話に関心を持って聞いた上で、自分の考えを持つ。	◎		・自分の学級では、サンファン館に行きたいと発表したが、4組のプレゼンを見てマンガ館に行きたいと決めることができた。
C	知 国語小2	校外学習候補の写真や動画などに興味を持って見る。	◎		・iPadが好きで、写真に興味を持って見ることができた。行ったことがあるが、マンガ館が好きであるため、4組に投票することを教師と一緒に選んだ。
	思 国語小2	見学場所候補の写真を見て、2~3の選択肢から選ぶ。	○		・教師が健に入ることで、2人の級友の意見を取り入れながら調べることもできた。
D	知 情報高1	情報機器(iPad)を活用して、校外学習にお勧めの場所を調べる。	◎		・3校時の途中で登録してきたが、すぐに発表の段取りを理解した。良い点として、「2組の誰も行ったことがないから。」が本来の理由であったが、発表準備中に「歴史を学べるから」と意見を言い出した。A課程の生徒のことも考えるよう話すこと、落ちついた。自問症のKSにせりふの変更を求めるなど思い付きの行動があった。
	思 国語1	学級で選んだ場所の良い点を発表する。	○		・校外学習を楽しみにしており、興味を持って話を聞いたり写真を見たりすることができた。
E	知 国語中1	教師や友達の話に興味を持ち、見たり聞いたりする。	○		・最後の決めせりふを大きい画用紙に書いて教師が身振りの模範を示すと、すぐに把握してワークに発表することができた。
	思 国語中1	自分なりに意見を発表することができる。	◎		・発表の日は頭痛で欠席
F	知 情報高1	パソコンやiPadを活用して必要な情報を調べる。	○		・どんな所に行きたいかKSとAAに気を配りながら、iPadで情報を収集することができた。「ディスカバーセンター」という陸前小野の施設を見付け、級友から賛同を得たが、残念ながらコロナ禍で休館中であった。
	思 国語高1	なぜその施設が適切なのか分かりやすく発表する。			・HYが発見した「ディスカバーセンター」の地球儀の写真を見て、「ここが良いです。」と選ぶことができた。
G	知 国語中1	友達の話聞いて、選択肢から自分が良いと思った所を選ぶ。	○		・3時間目に与えられたせりふの読み練習を行ったり、写真資料を画用紙に貼ったりして、何をするかを理解して学級のトピックカードとして発表できた。
	思 国語中1	友達と一緒に発表原稿をもとに話す。	◎		・iPadで調べることには大変興味があるが、自分が行きたいマンガ館にこだわりが強かった。
H	知 国語中1	教師や友達の話に興味を持って見たり聞いたりして、観光地を知る。	○		・学級の意見を発表する際、画面に向かって発表する意味が分からず、1人だけ違う作業を進めてしまう面があった。
	思 国語中1	学級の意見を発表し、友達の意見にも耳を傾けることができる。	△		

知	【情報】【社会】iPadを使用して検索したいことを調べることができる。C課程の生徒を中心にグループिंगをしたことで、必要な情報を得ることができた。
思	【国語】初めてのリモート形式での発表であったが、通し練習を2回しただけで画面に向かって話すことを理解し、画面の向こうの学年の友達を意識して発表できた生徒が多かった。 【家庭】「石巻 観光 車椅子」と検索する生徒がいるなど、学年の友達のことを考えて適切な施設を探そうとしていた。コロナ禍のため混雑する場所を避けることや11月下旬の寒さを想定して、屋内の施設を選ぼうとする生徒が多かった。
主	○高等部で最後の校外学習ということを踏まえて、楽しみながら調べたり発表準備したりすることができた。 ○初めから行く場所が決まっているのではなく、自分たちで考えることができるという点において学習への意欲が高まった。

《資料》

2 研究通信（1～28号）

No.	発行日	主な内容		発行日	主な内容
1	4/15	第一回全体会	1 5	10/19	季刊誌「特別支援教育：秋」の共有
2	5/18	個別の指導計画の説明会	1 6	11/9	高等部研究授業・検討会
3	5/20	単元シートの様式検討過程	1 7	11/11	体育「ボール運動」の実践共有
4	6/1	季刊誌「特別支援教育：春」の共有	1 8	11/20	学習評価と単元の反省
5	6/12	単元シートの説明会	1 9	11/27	遊びの指導と教科等の資質・能力
6	6/26	小学部研究授業事前検討会	2 0	12/9	生活単元学習と教科等の資質・能力
7	7/10	小学部研究授業	2 1	1/6	中学部研究授業・検討会
8	7/15	小学部研究授業事後検討会	2 2	1/7	事後意識調査の結果1
9	7/16	季刊誌「特別支援教育：夏」の共有	2 3	1/7	事後意識調査の結果2
1 0	7/31	単元シートを活用した教員の声	2 4	1/7	事後意識調査の結果3
1 1	7/31	事前意識調査の結果	2 5	1/7	事後意識調査の結果4
1 2	9/8	国語「聞くこと・話すこと」	2 6	1/12	研究の公開に意見の取りまとめ
1 3	9/16	第二回研究推進委員会	2 7	1/22	季刊誌「特別支援教育：冬」の共有
1 4	10/5	単元シートの活用状況	2 8	2/2	第二回研究全体会の案内

まなびを
つなげる

研究通信



宮城県立石巻支援学校
No.1 4月15日
研究部 文責：寺門

こんな時期だからこそできることを…(校長先生)

学校運営の先が見えず、大きな不安を抱えた状況での第1回研究全体会でしたが、今年度の研究についての説明を御清聴いただきありがとうございました。校長先生からは「自分たちのためにできること、子供たちのためにできることを考えていきましょう。」とお話をいただきました。研究部で、そのサポートを少しでもできたらと思います。

ご質問ありがとうございました

うまく答えられなかった部分も含めて…

～ご質問の内容を改めて整理いたしました～

Q1 特別支援研修会(個別の指導計画説明会)の後は教科の目標を立てて指導に当たるのか?

A1 教科ごとに評価を行う上では、できるだけ始めの単元から教科ごとに目標を設定するのが適切だと思います。個別の指導計画と授業がスムーズにつながるように、略案を工夫できたらと考えています。

Q2 重複障害の児童生徒の目標設定に不安がある。

A2 研究部としても教育課程委員会と一緒に、目標設定の方法を考えていきたいと思っています。

Q3 指導主事訪問に向けた授業実践の日程がタイトでは?

A3 実践交流の機会は大切にしていきたいですが、負担にならないようにしていきたいと思っています。今後、変更が予想される学校の予定に合わせて、できるだけ適切な方法と予定を考えていきたいと思っています。

Q4 研究授業の指導案の形式は?

A4 校内の実践については略案を活用した授業がいいと考えています。

指導主事訪問や初任者研修などの細案の形式は、今後、検討していきたいと思っています。

1年間よろしくお願ひいたします。

先生方の不安や疑問に答えていくことが、研究を深めることにつながると考えています。
お気軽に研究部にお話しください・・・



小学部	寺門	政彦
	遠藤	仁子
中学部	後藤	綾子
高等部	星	直哉
	山崎	光司
	富士原	真悟

まなびを
つなげる

研究通信



宮城県立石巻支援学校
No.2 5月18日
研究部 文責：寺門

我々が「こんなことをできるようにしたい」…をしっかりと持っていることが大切 (根岸教頭先生)

個別の指導計画の様式が大きく変わることに伴い、教科等の目標の設定の仕方について教育課程委員会より説明がありました。校内研究にも大きく関わることで、研究通信で主な内容について振り返りたいと思います。

学習指導要領の改訂について

・何を学んだかということに加えて、子供たちの学びの文脈の中で、学んだことを生かして「何ができるようにするか」を意識することが大切である…という内容を確認しました。その際、根岸教頭先生から、“目標を設定する際には、我々が「こんなことをできるようにしたい」ということをしっかりと持っていることが大切である”というアドバイスをいただきました。

H28.12 (答申)

各教科等において何を教えるかという内容は重要であるが、これまで以上に、その内容を学ぶことを通じて

①「何ができるようにするか」

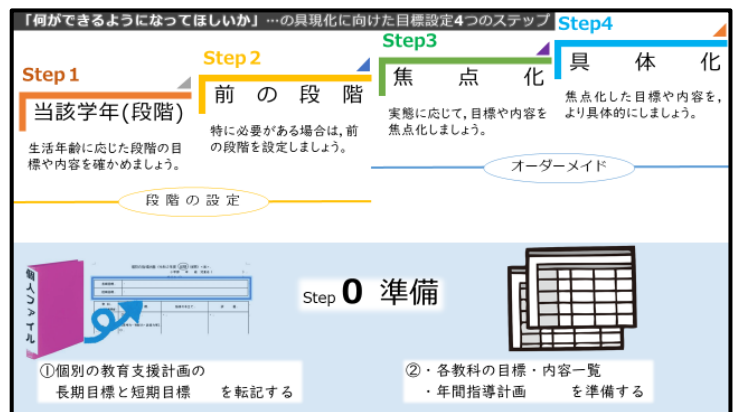
を意識した指導が求められている。



これまでの学習指導要領 ▶ 教員が何を教えるか

個別の指導計画の作成について

・「こんなことをできるようにしたい」…を具現化するために、児童生徒の実態に応じた目標の設定の方法について、四つのステップで提案がありました。改めて、児童生徒の調和のとれた育成に向けて、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた実践が求められていることを確かめることができました。



校内研究との関連について

・教科等における資質・能力の育成が求められている一方で、日常の指導において（特に教科等合わせた指導においては）教科等の目標を確認する機会がなかなかありません。

現在、先生方が協働して各教科等の資質・能力を意識できるような機会を作ることができたら…と、研究部において指導略案の形式を検討しています。研究部員が、先生方に、略案の形式について御意見を伺うことがあるかもしれません。どうぞ、忌憚のないご意見をお願いいたします。



まなびを
つなげる

研究通信



宮城県立石巻支援学校
No.3 5月20日
研究部 文責：寺門

6つの略案の形式を検討（研究部会）

5月18日、臨時の研究部会を持ち、指導略案の形式について検討しました。6人全員が、アイデアを持ち寄り、1人3分程度でプレゼンをしました。それぞれに工夫があり、互いに刺激を受けながらの検討会になりました。検討にあたり、次の2点を必須の基準としました。1点目は

各教科等の育成を目指す資質能力を踏まえた指導の工夫

の主題に結びつくように、教科等の資質・能力を踏まえて実践できる形式になっているか。2点目は

協働して作成する指導略案の活用を通して

の副題に結びつくように、協働して作成する形式になっているかです。



さらに、次の点についても検討しました

- ・教科等合わせた指導の場合、単元のめあては教科と関連を示すべきか
 - 合わせて指導する必要がある教科を確かめることが、教育課程の改善につながる
 - 個別の目標を焦点化するためにも、合わせて指導している教科やその資質・能力を明確にしたい
- ・単元の振り返りに観点は必要か
 - 目標を観点別にするのであれば、振り返りも観点別にした方が有用性のある略案になる
 - 観点別の振り返りは、次年度の計画の参考になるのではないか
- ・個別の目標は、記号で表記？／文章化して表記？ どちらの方が使いやすい？／作成しやすい？
 - 多少負担は増えるが、研究主題・副題に結びつくのは、文章化することではないか
 - 文章化してある方が、個の目標を確かめながら授業することができる
- ・単元の計画と単位時間の計画を分けて捉えると、簡潔で、計画作成の負担軽減になるのでは？
- ・略案の誰がどの部分を記入するか分かりやすいと良い。…作りやすさが使いやすさにつながる。

などなど…研究部以外のみなさんとも意見交換した内容が多くありました。今回検討した内容を取りまとめ、今月中に略案の形式をお示ししたいと思います。

~~~~~

臨時休業の延長に伴い、研究の計画や次年度以降の研究の見通しについても、再検討が必要であることを確かめました。こちらについても検討を重ねた上で、お伝えしたいと思います。



まなびを  
つなげる

# 研究 通 信



宮城県立石巻支援学校  
No.4 6月1日  
研究部 文責：寺門

## 「特別支援教育 春 No.77 (東洋館出版社)」と本校の校内研究

昨年度の研究部から提案で、今年度より書籍の定期購読することになりました。文部科学省初等中等教育局特別支援教育課が編集している季刊誌「特別支援教育」です。先生方の実践や研修に活用していただけたらと思います。研究部としても、本誌から学び、校内研究を深めていけたらと思います。今回のテーマは“障害のある児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善”となっています。この中から、今年度の校内研究と関わる部分や、今後、私達が学んでいきたい点などについて、ピックアップいたします。



### P.13 下段 L2～ 引用

本特集では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について取り上げているが、この側面だけで学びの質が高まるわけではない。各教科等での育成を目指す資質・能力の明確化とカリキュラム・マネジメントの実現との関連で捉えることが重要となる。

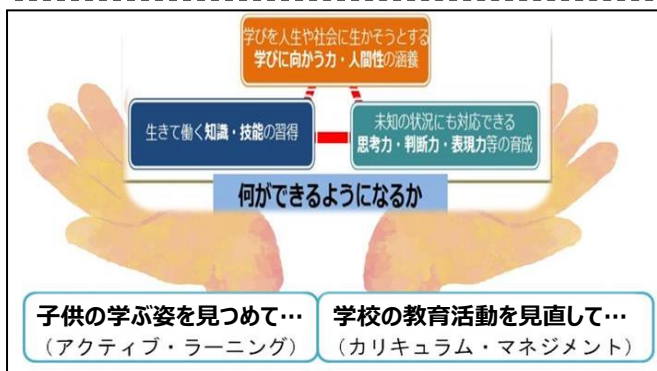


図1 ALとCMのイメージ(寺門)

新しい学習指導要領は、先に示した「資質・能力」「AL」「CM」に加えて「開かれた教育課程」を含め、4点が主なキーワードとして示されています。

どれも切り離すことができませんが、まずは校内で、育成を目指す資質・能力について理解を深めることが、他の三つの学びにもつながると考えました。

- ・育成を目指す資質・能力(？) 三本柱(？)
- ・各教科の特質(？)

AL や CM の実現へつなげるためにも、上記の(？)について、みんなで学んでいけたらと思います。

様々な書籍でも、「新しい時代に必要となる資質・能力」を育成するため「アクティブ・ラーニング(以下AC)」と「カリキュラム・マネジメント(以下CM)」を実現することが示されています。これは、「目標(何ができるようになるか)」に向かい、子供の学ぶ姿を見つめ、学校の教育活動を見直していくこと…と大きく捉えることができると思います(図1)。

### P.9 上段 L14～ 引用

今回の改定においては、育成を目指す資質・能力を、前述(何ができるようになるかの三本柱)のように整理し、これらに基づいて各教科等の目標及び内容を再整理し、三つの柱のバランスの取れた育成が必要であることを示している。

### P.12 下段 L5～ 引用

「单元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう」にすることとした上で、当該各教科の特質に応じて学習活動の充実を図るために配慮する

### 中村大介調査官の論文・記事にも注目!

P.22 中段には、「必然的にALの視点からの授業改善が求められるであろう」とし、「くり返し」や「成功経験」をキーワードとして、我々の取組に示唆を与えてくれています。また、P.65の生徒に教えられる中村先生の姿には、ほっとさせられるものがあります。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
研究部 文責：寺門・後藤  
No.5 6月12日

## 指導略案の形式についての説明会

6月8日、今年度の研究の要として提案する、指導略案の形式についての説明会を行いました。個別の指導計画を作成するお忙しい時期に、お集まり、ご清聴いただきありがとうございました。

### 二つの枠組みをこれまで以上に気を付けていかなければならない (文部科学省 中村大介先生)

中村先生が強調されていた **二つの枠組み** について確認いたします。

#### 学習指導要領の全ての内容を学べる枠組み (枠組み①)

新しい学習指導要領では、各教科で育成を目指す資質・能力が具体的に示されました。その内容の全てを計画的に学べるように、教育計画を整理することが求められています。私たちの学校においても、教育課程委員会を中心に、作業を進めているところです。

校内研究では、単元において育成を目指す資質・能力について、「見える化」して実践することで研究主題にせまりたいと考え、略案に記載できるようにしました。

#### 児童生徒一人一人の学びに合わせた枠組み (枠組み②)

私達は、これまでも一人一人の学びに応じて指導の工夫をしてきました。その学びがどのような資質・能力を育成することにつながるか、これまで以上に意識することが求められています。そこで、一人一人の目標も「見える化」できるようにしました。個別の指導計画の改善にも活用していただけたらと思います。

| 学年 | 教科 | 単元   | 指導要領   | 学習目標     | 学習内容       | 指導計画         |
|----|----|------|--------|----------|------------|--------------|
| 1  | 国語 | 1-1  | 1-1-1  | 1-1-1-1  | 1-1-1-1-1  | 1-1-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-2  | 1-2-1  | 1-2-1-1  | 1-2-1-1-1  | 1-2-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-3  | 1-3-1  | 1-3-1-1  | 1-3-1-1-1  | 1-3-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-4  | 1-4-1  | 1-4-1-1  | 1-4-1-1-1  | 1-4-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-5  | 1-5-1  | 1-5-1-1  | 1-5-1-1-1  | 1-5-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-6  | 1-6-1  | 1-6-1-1  | 1-6-1-1-1  | 1-6-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-7  | 1-7-1  | 1-7-1-1  | 1-7-1-1-1  | 1-7-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-8  | 1-8-1  | 1-8-1-1  | 1-8-1-1-1  | 1-8-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-9  | 1-9-1  | 1-9-1-1  | 1-9-1-1-1  | 1-9-1-1-1-1  |
| 1  | 国語 | 1-10 | 1-10-1 | 1-10-1-1 | 1-10-1-1-1 | 1-10-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-11 | 1-11-1 | 1-11-1-1 | 1-11-1-1-1 | 1-11-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-12 | 1-12-1 | 1-12-1-1 | 1-12-1-1-1 | 1-12-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-13 | 1-13-1 | 1-13-1-1 | 1-13-1-1-1 | 1-13-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-14 | 1-14-1 | 1-14-1-1 | 1-14-1-1-1 | 1-14-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-15 | 1-15-1 | 1-15-1-1 | 1-15-1-1-1 | 1-15-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-16 | 1-16-1 | 1-16-1-1 | 1-16-1-1-1 | 1-16-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-17 | 1-17-1 | 1-17-1-1 | 1-17-1-1-1 | 1-17-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-18 | 1-18-1 | 1-18-1-1 | 1-18-1-1-1 | 1-18-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-19 | 1-19-1 | 1-19-1-1 | 1-19-1-1-1 | 1-19-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-20 | 1-20-1 | 1-20-1-1 | 1-20-1-1-1 | 1-20-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-21 | 1-21-1 | 1-21-1-1 | 1-21-1-1-1 | 1-21-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-22 | 1-22-1 | 1-22-1-1 | 1-22-1-1-1 | 1-22-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-23 | 1-23-1 | 1-23-1-1 | 1-23-1-1-1 | 1-23-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-24 | 1-24-1 | 1-24-1-1 | 1-24-1-1-1 | 1-24-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-25 | 1-25-1 | 1-25-1-1 | 1-25-1-1-1 | 1-25-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-26 | 1-26-1 | 1-26-1-1 | 1-26-1-1-1 | 1-26-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-27 | 1-27-1 | 1-27-1-1 | 1-27-1-1-1 | 1-27-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-28 | 1-28-1 | 1-28-1-1 | 1-28-1-1-1 | 1-28-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-29 | 1-29-1 | 1-29-1-1 | 1-29-1-1-1 | 1-29-1-1-1-1 |
| 1  | 国語 | 1-30 | 1-30-1 | 1-30-1-1 | 1-30-1-1-1 | 1-30-1-1-1-1 |

### 作戦会議のツールとして...

この**二つの枠組み**の実現のためには、個別の目標と学習内容や題材を結びつけていく作業が必要だと考えます。そのために、互いの意見を交換する作戦会議のツールになればと考え、今回の形式を提案させていただきました。略案を活用した感想や効果を研究部員まで教えていただけたらと思います。



ご活用ください

小中職員室前に、先生方向けの資料を置いている本棚があります。これまでは資料の重みに棚や蓋が歪み、活用されることが少ない本棚でしたので、中の資料をご覧になったことがない先生方も多いのではないのでしょうか。実は、そんな本棚を新田さんが見違えるように直していただきました。また、それを見た校長先生が「先生方に自由に読んでほしい」と「季刊特別支援教育」を過去1年分配架していただき、さらに充実したものに。上の段には雑誌を、下の段には研究紀要を配架しました。今後も整備していきますので、どうぞご利用ください。



まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.6 6月26日  
研究部 文責：寺門

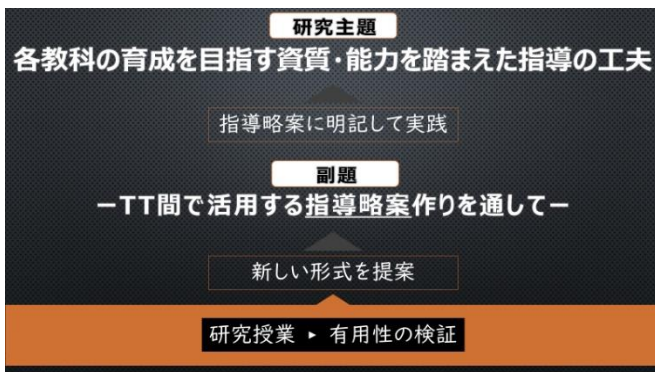
## 小学部研究授業 遊びの指導「ルールのある遊び」 事前検討会

6月22日、小学部研究授業の事前検討会が行われました。内容は次の通りです。

### 1 研究の経過（研究部）

これまでの研究の経過について、次のように確かめました。

- ① 学習指導要領の内容を踏まえて実践できるように、研究主題を「各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫」と設定したこと。



- ② 研究主題に迫るために、本校で作成している指導略案に「資質・能力」を明記すること。
- ③ 副題を「TT間で活用する指導略案作り」と設定したこと。
- ④ 新しい略案の形式を研究部より提案したこと。
- ⑤ 研究授業（事前・事後検討会を含む）で、新しい略案の有用性を検証していくこと。

### 2 研究授業参観のポイントと方法（研究部）

研究授業を参観するポイントについて、次の通り確認いたしました。

- ① 研究主題の「資質・能力」は、単元や題材など時間や内容のまとまりの中で育成するもの。
- ② 1単位時間の参観で略案の有用性を検証するのは困難であること。
- ③ そこで、個の学びに着目し、参観のポイントを絞ることが効果的であると考えたこと。



その上で、研究授業を参観する方法を次のように提案いたしました。

- ① 児童それぞれの学びの様子を役割分担して参観すること。
- ② その様子を付箋紙に記入し、全員参加型のワークショップによる事後検討会を行うこと。

### 3 単元の計画と本時の流れについて（授業者）

色川信子先生より、作成した指導略案と本時の流れについて説明していただきました。指導略案（単元シート）と本時の流れ（授業シート）は、掲示板にて共有させていただきます。

### 4 質疑・応答 ～略案の作成に関連するいくつかの質問に絞ってお伝えいたします～

Q：略案作成に要した時間と手順を知りたい。

A：研究授業ということで、早めに着手した。期間は、1カ月程である。

手順は、授業者が、本時の目標、単元の資質・能力、学習計画を提案した上で、担任が個別の目標を設定した。単元の目標や資質・能力を見直した上で、個の目標を設定し直したり、個の目標に合わせて学習内容を見直したりした。何度か話し合いを経て、今回お示した略案になった。学習を進めていく上で、調整が必要な部分が出てくると考えられる。変更点についても事後検討会の際にお示ししたい。



Q：単元の「資質・能力」に設定した全ての教科が、個別の「資質・能力」の目標に設定されていないのはなぜか。個別の目標が全員生活になっているが、合わせたのか。

A：個別の目標が生活になったのは偶然である。個別の目標には、他の教科についても記入したい気持ちがあったが、話し合いを重ねて焦点化されてきた。今回の実践を共有した上で、より良い作成方法や活用方法を検討していきたい。

Q：個別の目標は焦点化してある。授業を参観する際に、単元の資質・能力と関連していれば、他の教科に関わる児童の様子を付箋紙に記入してよいか。

A：略案で示した個別の目標以外にも、教員間でねらっている目標がある。ぜひ、参観を通して気付いた姿を共有したい。教科の流れで、どのような成長が見られたか（期待されるか）共有して、略案の活用方法を探っていきたい。



Q：個別の目標で設定していない部分についても、児童は良い姿を見せてくれるはずである。「メモ欄」を有効に使うと良いのではないだろうか。

A：（事前研の後に、学年でメモ欄の活用について確認しました。その内容についても、事後検討会までにお示ししたいと思います。）





## 小学部研究授業 遊びの指導「ルールのある遊び」 研究授業

7月2日、小学部研究授業と事後検討会が行われました。

前日までに配られた改訂版略案には、メモ欄にもぎっしり記載。これまでの学習の経過も知ることができました。

参観者は、授業参観シートを手に、分担された児童の様子を中心に、参観のポイントに沿った成果と疑問点を付箋に記入しながら、楽しく参観させていただきました。



教室前のウエルカムボード

### ①ウォーミングアップ

楽しく学習に取り組めるように、風船アタックや足つぼシート歩行をしました。場も盛り上がりとても楽しい雰囲気。



風船アタック

### ②おはなし

頭上には、みんなと確認した大切なこと。(順番を守る、友達を応援する、勝っても負けても楽しく)



約束と活動順の掲示

### ③ゲーム「玉すくい」

赤と青のチームで順番にボールをすくって運びました。運んだボールは、上に積み重ねるように並べて比べられるような教材の工夫が。

次の友達にボールをすくうざるを手渡して、交代です。

### ④振り返り

感想カードを選んで、発表しました。

### ⑤片付け

スツと全員が立ち上がり、それぞれが自分から動いて片づけを行いました。

ゲームの流れが分かり、教師の支援を受け入れてルールを守ろうとする姿、ボールを数え終わると自分から教師に喜びを表現する姿、自分からはっきりとした声で「どんまい。」と友達に伝える姿……。随所にきらりと光る子供たちの姿が見られました。

参観者からは、ボールを比べる時の教材の仕組みや、重複児童のゲームの工夫等に、驚きや感嘆のつぶやきが聞こえてきました。笑いが絶えない授業で、参観体制を組み、交代で参観に来られた先生方からは、「もっと見たかった！」との声も聞かれました。

学校が再開して1か月足らずで(略案の作成はもっと以前から!!)、新しい形式の略案で、とても工夫された授業をご提案いただいた5年生の先生方、大変ありがとうございました。

～事後検討会については、次号 No.8 でお知らせしたいと思います。



順番を守って活動



ボールの数を高さで比較



カードを選んで感想発表



進んで後片付け

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No. 8 7月15日  
研究部 文責：遠藤

## 小学部研究授業 遊びの指導「ルールのある遊び」 事後検討会

7月2日放課後、事後検討会が行われました。内容は次の通りです。

### 1) 事後検討会の流れと目標 (研究部)

右の表の流れで検討会を進め、「7 個人の振り返り」で、今回の研究授業からの気づきや今後の実践に生かせることをワークシートに記入することを目標とすることを確かめました。

### 2) 授業者 (学年) より時評

色川信子先生より、本日に至るまでの T-T 間の取り組み、今日の授業を振り返っての個々の評価、そして教師の評価についてお話いただきました。

### 3) ワークショップ

参観のポイントについて、四つのグループに分かれて、黄色の付箋 (成果) と桃色の付箋 (疑問点) を大きなシートに貼りながら、意見を交わしました。

### 4) ワークショップのまとめ

各グループで、3 分の発表に向けて、まとめをしました。

### 5) グループごとに発表

成果の他に、疑問点からは改善案を一つに絞って発表しました。その中のいくつかをお知らせいたします。

視点①一人一人の学びが各教科等の資質・能力の育成につながっているか

<成果>

- ・カーテンレールに吊り下げられた順番表示をよく見て、順番を待つことができていた。また、ざるをバトン代わりに手渡すことで、より順番を意識することができていたと思う。→ 生活
- ・ボールを使って得点を視覚化する (比べ棒) ことで、赤と青のボールを比べる意識を持つことができた。→ 算数

<改善案>

- ・一人一人の活動を見合う時間があったが、その分活動量が少なかったように思う。時数を増やして、競争要素を取り入れてもいいのでは。

| 事後検討会の流れ            | 時間 (45分)       |
|---------------------|----------------|
| 1 事後検討会の流れと目標 (研究部) | 2分             |
| 2 授業者 (学年) より時評     | 4分             |
| 3 ワークショップ           | 15分            |
| 4 ワークショップのまとめ       | 6分             |
| 5 グループごとに発表         | 12分 (3分×4グループ) |
| 6 発表を受けて授業者 (学年) より | 3分             |
| 7 個人の振り返りと発表        | 3分             |

ワークショップの流れ



4～5名でのワークショップ



グループごとに発表

## 視点②その他（主題に関連して、略案形式の改善点など）

### <成果>

- ・個別の目標を提示することで、授業づくりのポイントが具体的になり、資質・能力の育成につながりやすくなる。
- ・メモ欄の活用がいいと思う。日常的にメモをして、評価につなげてもいいのでは。

### <改善案>

- ・個別の目標は、焦点化した目標で迫った方がいいのか、単元で目指す資質・能力の教科全てが入った方がいいのか。

## 6) 発表を受けて授業者(学年)より

- ・先生方に個々の児童の様子を見てもらうことで、気付かなかった良い姿や、より表出を促せる機会があったことなど、たくさん教えていただいた。
- ・授業を進めることを意識しすぎて、個の表出を促せる場面を作れるはずの機会をのがしてしまった。先生方に個を見ていただいたことで気付くことができた。
- ・9人(の児童)を4人(の担任)で育てることの原点に戻ったような気がする。

## 7) 個人の振り返りと発表

事後検討会シートの「個人の振り返り」の欄に、授業研究からの気づきや、今後の実践に生かしたことなどを記入しました。限られた時間でしたが、数人の先生方に発表いただきました。いくつかをご紹介します。



個別の目標記入欄があることで、担任間みんなで学年の子供たちの実態をあらためて捉え、一緒に目標を考え、授業の中身を考えること、授業を作っていくことができるよさをととも感じました。

あらためて、授業は授業者全員で作っていくものだと実感した。色川先生の「先生方との指導案作りが楽しかった。」というコメントが印象的でした。



個別の目標がはっきりしていると、その姿からメモ欄にいろいろ書いていけばいいと思いました。

今回の研究授業、事後検討会は、担当する児童を決めて、4~5人程度のワークショップ形式で行われました。小学部の先生方からは、  
「担当の児童を中心に追っていくという見方は、シンプルゆえにととも取り組みやすかった。」  
「今回の方法が良かった。深めることができた。」  
とのご意見もいただきました。

たくさんのご意見、ありがとうございました！  
この学びを、それぞれの場へつなげていきたいと思います。



まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.9 7月16日  
研究部 文責：寺門

## 「特別支援教育 夏」 No.78 (東洋館出版社)」と校内研究

季刊誌、特別支援教育「夏」(以下「本稿」)が届きました。今回の特集は「知的障害者である児童のための各教科の学習評価」です。新しい学習指導要領では、「学習評価の充実」について、新たな項目が置かれました。その項目について、本稿では、P5上段L8～中段L6に学習指導要領から引用して示しています。その内容について、(批判を恐れず私見で)①～④の小見出しを付けてみました。



- ① 児童生徒の成長のための評価
- ② 資質・能力の育成に生かす指導の評価
- ③ 個別の指導計画に基づいた評価
- ④ 組織的かつ計画的な評価

この四つの小見出しを、今年度提案した指導略案と照らし合わせ、活用の方法や可能性を考えてみたいと思います。(右図参照)

| 【単元シート(保存用)】 ○○級○年/グループ 題材・単元指導計画   |      | 【別紙】 単元指導計画       |         |
|-------------------------------------|------|-------------------|---------|
| 指導形態/教科・領域                          | 実施形態 | 内容                | 備考      |
| 単元の目標                               |      | 育成を目指す主な教科等の資質・能力 |         |
| 時                                   | 日付   | 主な学習内容            | 学習で・留意点 |
| 単元の反省(学習目的・学習で・教材・授業時間・指導形態などの観点から) |      | 評価                |         |

提案した指導略案の形式

①は、「メモ欄」を活用することで評価に生かせると考えます。本稿では「児童又は生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価」と示されています。学習を進める上で見られた、児童生徒のきらりと光る姿をメモするなどして活用できるのではないのでしょうか。

②は、「学習内容」や「学習評価」、「単元の反省」を活用することで評価に生かせると考えます。本稿では「評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し…」と示されています。実践を行いながら、児童生徒に合わせて「学習内容」を調整したり、「学習評価」を次の単元へ生かしたりすること、また、「単元の反省」を次年度の単元の計画などに生かしていければと考えます。

③は、「個別の目標」を活用することで評価に生かせると考えます。個別の指導計画で設定した目標を学習内容に反映させることもありますが、単元において設定した目標が個別の指導計画の充実につながることもあると思います。

④は、T-T間で略案を作成したり活用したりすることで評価できると考えます。本稿には「**創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう…**」と示されています。協働して略案を作成・活用しながら、目標やメモ欄を共有していくことは、評価の妥当性を高めていくことにつながると思います。

「評価」という面から見ても、指導略案について活用の方法や可能性は様々考えられると感じました。先生方におかれましても、略案を作成・活用した上で感じたことやさらなるアイデアを、研究部にも教えていただけたらと思います。



## 先生方へインタビュー!!

指導略案（単元シート）について作成、活用していただいている先生方にインタビューを行いました。簡単ではありますが、活用してみたの実用性についてお話いただいております。今後の活用のご参考にしていただければと思います。



先生方、早速作成していただきありがとうございます。



指導略案（単元シート）を実際に作ってみていかがでしたか？

私は、小学部で研究授業を担当しましたが、「単元のねらい」や「自分はここを大事にしている」「この子のここをねらう」というイメージができました。個別の目標も、分担なのでそれほど負担ではありませんでした。



A先生

高等部の保健体育で個別の目標を入力しましたが、思っていたほど負担ではありませんでした。



B先生



指導略案（単元シート）を作成して実際の授業はどうでしたか？

子どもの主な目標を明確に意識できました！



C先生

担当の子どもだけでなく、周りの子どもの目標も分かるので、よりみんなで指導することができると感じました。



D先生



指導略案（単元シート）を作成して気付いたことはありますか？

指導略案（単元シート）の実用性を感じています。もっと実用性を高めるために、書き方の共通理解やレイアウトの工夫ができると思います。詳しいことは、研究部員にお伝えしたいと思います。



E先生



ありがとうございました(^\_^)



作成していただいた指導略案（単元シート）は先日の職員会議でお話しさせていただきましたフォルダ（各学部）に保存をお願いできればと思っております。



今年度は、指導略案（単元シート）作りを通して、先生方が取り組みやすい形式に改善していきたいと考えています。「良い点」や「こうしたらもっと良くなるのでは」などを共有、検討し先生方と一緒に作っていただければと思います。

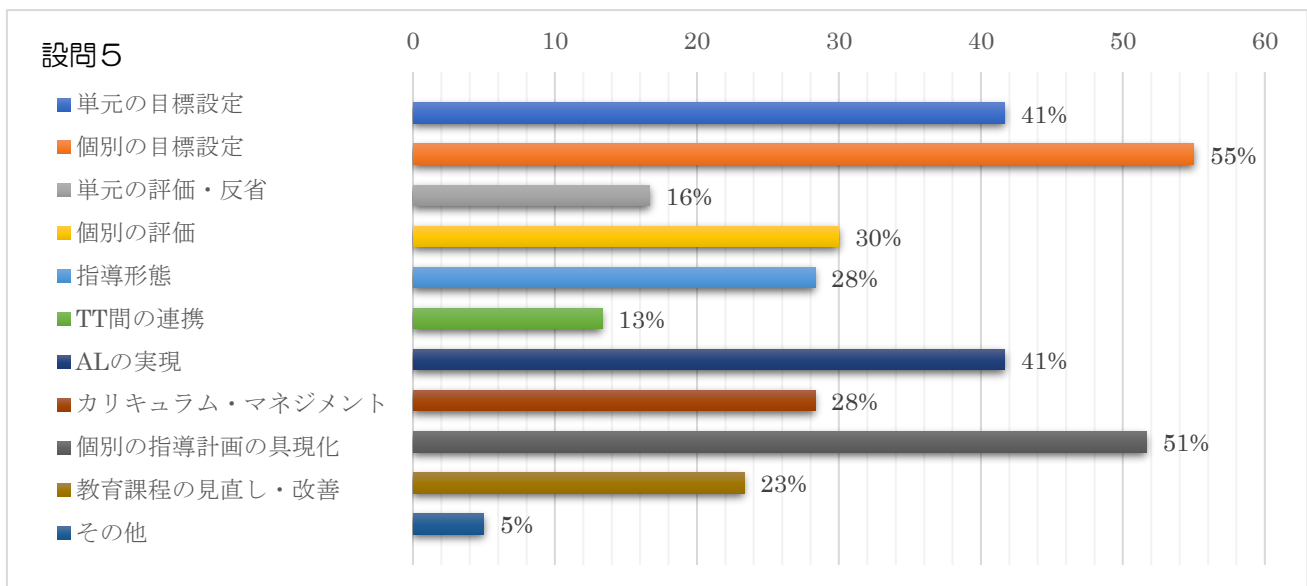
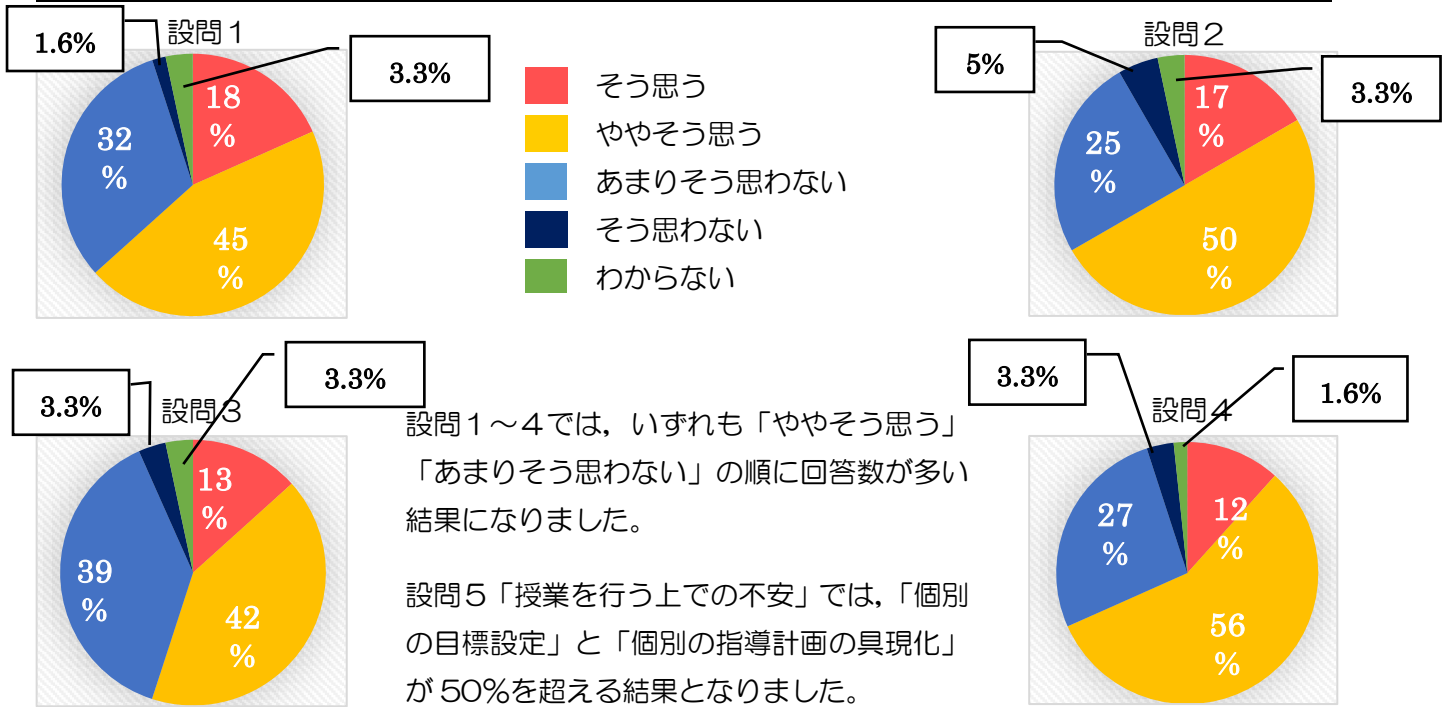
# 研究通信



お忙しい中、アンケート調査へのご協力ありがとうございました(回収率は86%でした!)

質問事項とその結果を以下にまとめました。

|     | 内容                                                               |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 設問1 | 単元の目標は、何の教科のどのような力を育成することにつながるかを踏まえて設定できていると思いますか。               |
| 設問2 | 単元の学習を展開する上で、児童生徒の個別の目標は TT 間で共有できていると思いますか。                     |
| 設問3 | 単元を通して、児童生徒に何の教科のどのような力が身に付いたかを踏まえて、評価や反省ができていると思いますか。           |
| 設問4 | 日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導や作業学習を展開する上で、何の教科を合わせて指導しているかを意識できていると思いますか。 |



まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.12 9月8日  
研究部 文責：寺門

## 知的障害のある児童生徒のための各教科「国語編」

「知的障害である児童生徒に対する教育をするための専門性とは何ですか？」と尋ねられたら、どのように答えるでしょうか。「個を理解・支援するための方法や手順を理解していること」「アセスメントの客観性」「指導方法や技術の多さ」「個別の指導計画を作成・活用することができること」・・・など、様々考えられるのではないのでしょうか。文部科学省の中村調査官は、「生活年齢に応じた学習内容の枠の中で、一人一人の発達段階に応じた学習内容を成立させること（文責：寺門）」も、専門性の一つである趣旨の御発言をされています。

教育課程に、各教科等を合わせて指導をする形態が設定してある本校においては、「様々な教科の特質を理解していること」も、知的障害教育の専門性として捉えることができるのではないのでしょうか。

そこで本号では、指導の場面の多い「国語」について、新しい学習指導要領の内容を確かめてみたいと思います。まずは、下の問いについてお考えいただけますか。

**Q:** 下のA・Bは、「小学校」と「小学部（知的障害である児童生徒に対する教育）」の学習指導要領で示された国語の「内容の構成」を示したものです。どちらが、小学部でしょうか？

### 内容の構成の改善（学習指導要領解説）

## A

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 聞くこと・話すこと
- B 書くこと
- C 読むこと

## B

〔知識及び技能〕

- (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2)情報の扱い方に関する事項
- (3)我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

このように、学習指導要領を比べることで、教科の特質について理解を深まることもあるのではないのでしょうか。

（裏面へ続く）

解答は、**Aが小学部** です。(Bは小学校。)

小学校の国語科では、「話すこと・聞くこと」としてあります。表現力の育成を踏まえた（アウトプットに向けたインプットを重視した）順序になっていることに気がきます。

一方、小学部の国語科では、「聞くこと・話すこと」の順で示してあります。日常的な絵本の読み聞かせなどを通して、「聞くこと」で内言語を豊かにし、内言語があふれ出るようになったときに表出言語が生まれるという発達の観点を踏まえた順序性になっています。



うさぎだね。  
かわいいね。  
たのしそうだね。

## 「聞くこと」の内容のつながり

「聞くこと」については、下の図のように学習内容や対象に広がりがあります。



『子どもの語彙力を伸ばすのは、親の務めです。(角川書店)』 P. 21に、次のようなことが述べられています。

=引用=====

そもそも物を考えるということは、言葉によって行われているということを忘れてはなりません。思考は、頭の中で言葉を駆使して行われるものです。つまり、何かについてじっくり考える、あるいは意見を持つためには、先にたくさんの言葉をインプットすることが必要不可欠なのです。

=====引用=



今回は、国語の「聞くこと・話すこと」に焦点を当て、内容のつながり確かめてみました。他の教科や内容についても関連や系統性を意識して実践していきたいと感じました。



先生方の専門教科についての教科の専門性についてもいろいろ教えていただけませんか。ぜひ、共有させていただきたいと思います。



【参考文献】 特別支援教育研究 7月号 P. 2～5  
「知的障害教育における教科の構造と系統性」  
東京都教育庁指導部特別支援教育指導課長 丹野 哲也 氏

こちらの雑誌を、9月末日まで校内研究資料コーナーに置かせていただきます。どうぞご覧ください。





まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.13 9月16日  
研究部 文責：寺門

## 第2回研究推進委員会について

8月31日、第2回研究推進委員会がありました。4点お知らせさせていただきます。

### 1 「略案」という呼び名を変更します。▶▶▶ 「単元シート」

「略案は『本時の流れ』を表すことが一般的」と様々な先生方よりアドバイスをいただきました。そこで、次のような働きがあるシートを「単元シート」と名付け、略案と区別することといたします。



「単元シート」…単元や題材の指導をする上で、次の①～⑥を記載するシート

- ①単元の目標、②学習内容、③単元で育成を目指す資質・能力、
- ④個別の育成を目指す資質・能力、⑤学習評価、⑥単元の反省

### 2 1にともない、副題を改めます。

— 教員間で活用する単元シートの作成を通して —

### 3 研究全体会の日程が変更になりました。▶▶▶ 2月10日

3月16日に計画されていた研究全体会を、上記の日程に変更させていただきました。また、学部の実践を交流するポスター発表も、同日に行います。

当日の予定を、下記のように考えております。



|       |              |       |                 |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 前半40分 | ポスター発表（学部研究） | 後半30分 | 全体会（まとめ・次年度の提案） |
|-------|--------------|-------|-----------------|

### 4 広く御意見をいただく場を設けます。

「実践を公開することについて考えてみてほしい。」・・・という校長先生の御意向を受けて、研究推進委員会において意見を交換しました。その内容は、次の通りです。

- ・先生方のプラスになる形を模索しながら、前向きに検討したい。
- ・完成形やまとまった成果を発表する場ではなく、実践や悩みを交流するような研究会にしたい。
- ・本校の取組が独り歩きしないよう、実践を交流する場を持ちたい。
- ・本校の取組は、他の学校の良い参考になるはずである。
- ・感染症の状況を見極めながら、会の持ち方を検討していくべき。

次年度「公開研究会」を実施できるように、準備をします。アドバイス・アイデアなど、ぜひ、研究部員に教えてください。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



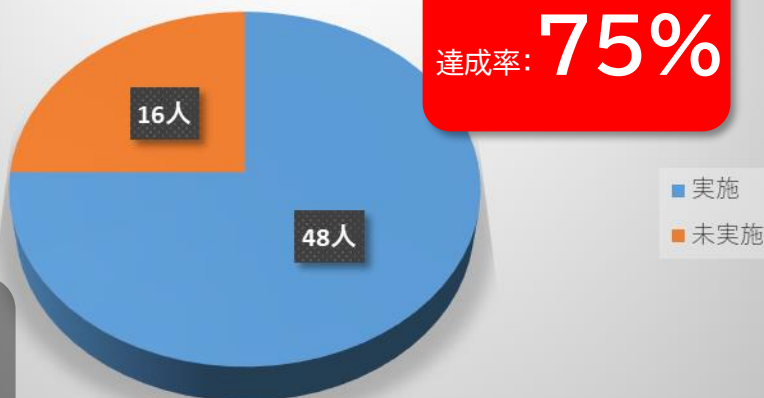
宮城県立石巻支援学校  
研究部 文責：富士原  
No.14 | 10月 5日

## 単元シート進捗状況



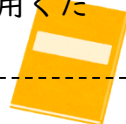
感謝、  
申し上げます！

全体



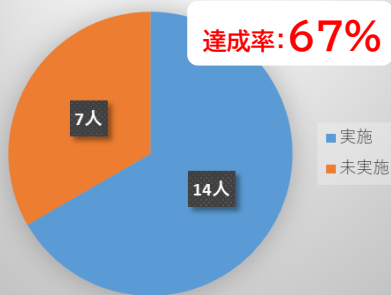
ちょっとお知らせ

小中職員室前と高等部印刷室内の書籍コーナーに研究通信「まなびをつなぐ」のバックナンバーを配架しました。もう一度読みたいときや、データを探すのは面倒！というときなどにどうぞご利用ください。



9月28日現在の単元シートを参考に数値を算出しております。

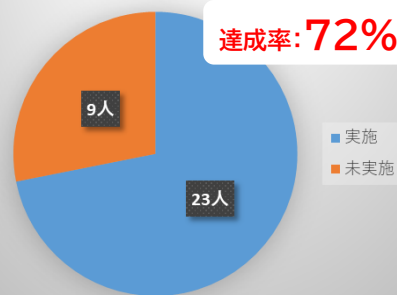
小学部



中学部



高等部



いつも校内研究に御協力いただきありがとうございます。

上記、単元シートに関わっていただいている先生方の進捗状況です。すでに多くの先生方が新様式に関わっていただいていることが分かります。また達成率に関わらず、職員室を歩くと多くの先生方が単元シートを用いて授業の構成や個別の目標の設定を「**ああでもない、こうでもない。**」と話し合いをしている様子を目にすることがよくあります。おそらく“未実施”の多くの方々は、デスクトップ等に保存しているのだと思います。**ぜひ！ぜひ！**研究部でお示しさせていただいたフォルダに保存をお願いします。フォルダを拝見させていただくと、学年で使いやすいレイアウトに変えて実施しているところもあるようです。

“みなさんに使いやすいかたち”を目指すシートの参考になります。今後ともよろしくお願ひします。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.15 10月19日  
研究部 文責：寺門

## 季刊誌：特別支援教育「秋」

秋の季刊誌が届きました。特集は、感染症対策に関する内容です。特集以外の項に、参考になる取組がございましたので、御紹介いたします。

P.42～45に掲載されている、佐世保特別支援学校（以下「佐世保支援」）の「単元別指導計画表」について、本校の「単元シート」と比較し、寺門のコメントを添えて表にまとめました。裏面に示した、二つの資料と合わせてご覧ください。



| 佐世保支援       | 本校                       | コメント（寺門）                                                         |
|-------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------|
| ① 単元目標      | Ⓐ 単元の目標<br>Ⓑ 育成を目指す資質・能力 | 本校は、現在の教育課程を活用するため、単元の目標を三観点で示すのではなく、関連する学習指導要領の内容を記載するようにしています。 |
| ② 部段階で育てたい力 |                          | 佐世保支援では、卒業後の進路を見通した系統的な目標を学校独自に設定しています。                          |
| ③ 指導上の留意点   | Ⓒ 手立て・留意点                | 佐世保支援では、アクティブラーニングの実現に向けた手立てを記載しています。                            |
| ④ 評価規準      |                          | 佐世保支援では、単元目標を具体的にして記載しています。                                      |
|             | Ⓓ 個別の目標                  | 本校では、単元で扱う内容を基に、個別の当該段階の目標を設定しています。                              |
|             | Ⓔ 学習評価                   | 本校では、育成を目指す資質・能力を踏まえ、「何が身に付いたか」を記載する欄を設定しています。                   |
| ⑤ 授業評価      | Ⓕ 単元の反省                  | 佐世保支援も本校も同様の観点で単元を振り返っています。                                      |

佐世保支援の取組は、連載の題名にもあるように「カリキュラム・マネジメント」に重点を置いた表になっていると感じました。

本校の単元シートは、授業で活用するためのシートを目指しています。

このように比べてみると、佐世保支援学校と本校の実践は、目的や表の形式は違っていても、内容には多くの共通点を見付けることができました。互いに、これまでの校内研究の流れを大切にしていることが想像できます。

本号で比較した二校同様、学習指導要領を実践に反映させるため、各学校において様々な取組がなされているのだと思います。今回のように比較することで、多くの気づきを得られるかもしれません。

参考になる取組がございましたら、教えていただけたらと思います。

**先生方の情報をお待ちしています！**



佐世保支援の単元指導計画表

|           |                                            |                               |
|-----------|--------------------------------------------|-------------------------------|
| 科指導計画表    | 単元名【 】                                     | 指導時期 月 日                      |
| 単元計画      | (題材名・時間)                                   |                               |
| 全( )時間    | ①「( )」②「( )」③「( )」                         |                               |
| 部段階で育てたい力 | ◎ ②                                        |                               |
| 単元目標      | A (知・技)<br>B (思・判・表)<br>C (学・人)            | ①                             |
| 題材①       | 【内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。                 | 【指導上の留意点、教材等】③                |
| 題材②       | 【内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。                 | 【指導上の留意点、教材等】                 |
| 題材③       | 【内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。                 | 【指導上の留意点、教材等】                 |
| 単元評価      | A (知識・技能) B (思考・判断・表現) ④ C (主体的に学習に取り組む態度) |                               |
| 反省        | 【授業時数・指導時期について】⑤                           | 【目標設定・内容・手立てについて】<br>【教材について】 |

本校の単元シート

【単元シート（保存用）】

| 指導形態/教科・領域                                  | 題材・単元 | 時数                | 期間                | 記入者 (TT)        |
|---------------------------------------------|-------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 題材の目標                                       |       | 育成を目指す主な教科等の資質・能力 |                   |                 |
| Ⓐ                                           |       | 知<br>⑦<br>主<br>Ⓑ  |                   |                 |
| 時                                           | 日付    | 主な学習内容            | 〇手立て・留意点          | 教務              |
|                                             |       |                   | Ⓒ                 |                 |
| 日                                           | 教科    | 個別の目標             | ◎達成 ○概ね達成 △達成できない | 評価              |
|                                             |       |                   |                   | メモ欄(記号・具体的変更など) |
| 単元の反省 (合わせた教科・学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から) |       | 知<br>⑧<br>主<br>⑧  |                   |                 |
| ⑨                                           |       |                   |                   |                 |



## 高等部研究授業

授業を提供して下さった齊藤博美先生、高等部3年生の先生方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。授業の概要をお知らせします。

### 【単元】

卒業後の暮らしを考えよう（娯楽施設を利用しよう）

### 【内容】

学級ごとに行き先の候補案を練り、プレゼンをする。その後、生徒が投票をして行き先を決定する。



プレゼンは、3学級がサンファン館、1学級が漫画館を発表することになりました。生徒達はiPadを駆使し見所を調べたり、興味が持てるように個性を生かして発表練習をしたりしました。個性を生かしたリモート発表は大いに盛り上がり、それぞれの学級で笑みを浮かべながら聞く姿はとても印象的でした。生徒達による投票結果は、前評判とは裏腹に接戦。17対14でサンファン館に決まりました！

リモートやiPadの利用は生徒の意欲を引き出したと思う！

### 事後検討会にて “先生方の声”



リモートだったけど、みんなとつながっているように思えた！

教員の準備から協力体制も素晴らしかった！

自分で発表する内容を決めている生徒が多くいた！

自分たちの活動を自分たちで検討して決めることは、今後の生活に生きると思った！

投票を行い、全員の意見を聞くことができて良かった！



## 事前検討会

事前検討会で授業者からの説明に加え、単元シートの確認や質疑等を行いました。主に以下の点について、質問や感想が交わされました。

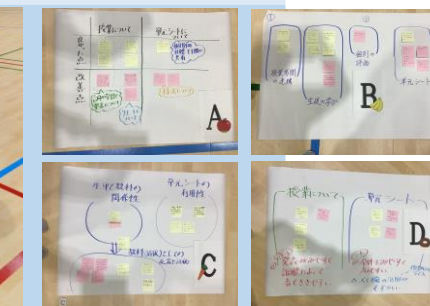
事前に個別の目標を共有できて良かった。  
→個別の目標（段階）の違いに気付くことができた。

題材単元を詳しく確認することで、来年度への教育課程について見直しの資料になる。



## 事後検討会

事後検討会では、授業の要点をまとめたビデオ視聴と授業者からの自評の後、4グループでワークショップを行いました。「研究授業を通して、単元シートの有用性」について話し合いました。



TT全員が個別の目標を意識することができ、手立てを明確にすることもできた。

各教科の要素をどのように合わせて設定した単元かを、改めて意識することができた。

個々の目標が明確なためグループワークする際の組み合わせや役割分担に有効だった。

### ★使いやすいシートを目指して

メモ欄があることで、個別の指導計画へ反映させやすい。むしろ、もっと書き込みたいので欄を大きくしてほしい。

単元シートの作成、見方の理解を深める。

高等部のように大人数だと情報量の整理が必要。

たくさんのご意見、ご協力ありがとうございました。この学びを、それぞれの場へつなげていきたいと思っています。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.17 11月11日  
研究部 文責：寺門

## 本校の教育課程を生かして・・・

単元について打合せした際の気付きを共有します。図1は、色川信子先生が昨年までの略案を基に計画した、小学部5・6年生体育「ボールでゴー！」の単元シートの一部です。図2は活動のイメージです。

| 時 | 日付                      | 主な学習内容                 | ○手立て ・留意点                                                                         |
|---|-------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 11/5(木)<br>9月<br>10(火)  | ・ボール送り                 | ・目標別小グループごとに、児童の目標に応じてボールパス&キャッチ練習を行う。<br>・シュートでは、投げて入れる。                         |
| 2 |                         | ・ボールパス&キャッチ            |                                                                                   |
| 3 |                         | ・シュート<br>*キャンディボール等を使用 |                                                                                   |
| 4 | 12(木)<br>16(月)<br>17(火) | ・ボール送り                 | ・目標別小グループごとに、児童の目標に応じてボールパス&キャッチ練習を行う。<br>・シュートでは、蹴ってゴールに入れる。または、目標的となるものに蹴って当てる。 |
| 5 |                         | ・キックでパス                |                                                                                   |
| 6 |                         | ・シュート<br>*サッカーボール等を使用  |                                                                                   |

図1 小学部5・6年生 体育「ボールでゴー！」学習内容（抜粋）



※最後はキックでシュートへバリエーションの変化

図2 体育「ボールでゴー！」のイメージ（学習計画の一部）

打合せの際に、学習指導要領解説教科編の内容を確認しました。図3は小学部2段階、図4は小学部3段階の内容です。

|                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------|
| ○ボールを教師や友達に手渡したり投げたりするボール送りゲーム<br>・先生や友達にボールを手渡したり投げたりしてゴールにボールを運ぶこと。 |
| 「ボールを使ったゲーム」<br>○ものやマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりする的当てのゲーム                 |

図3 小学部2段階体育活動内容の例示（抜粋）

|                                     |
|-------------------------------------|
| 「ボールを使ったゲーム」<br>○的当てゲームを発展したシュートゲーム |
|-------------------------------------|

図4 小学部3段階体育活動内容の例示（抜粋）

図2は、小学部2段階の活動の例示に沿った内容が分かります。色川先生の計画では、グループの活動を大切にしています。実態に合わせながらグループ対抗でゲーム性のある活動に発展していくことで、3段階の学習に沿った活動になります（図5）。本校でこれまでの実践してきたことは、新しい学習指導要領を踏まえ、2段階・3段階それぞれの目標を設定している児童に合わせた内容であることが

分かりました。これは、学習指導要領が変わっても、**授業が大きく変わるわけではない**ことを示していると思います。

本校の教育課程から学習指導要領の例示に沿った活動を見つけていくことも大切な作業だと感じました。

色川先生、実践の提供ありがとうございます！

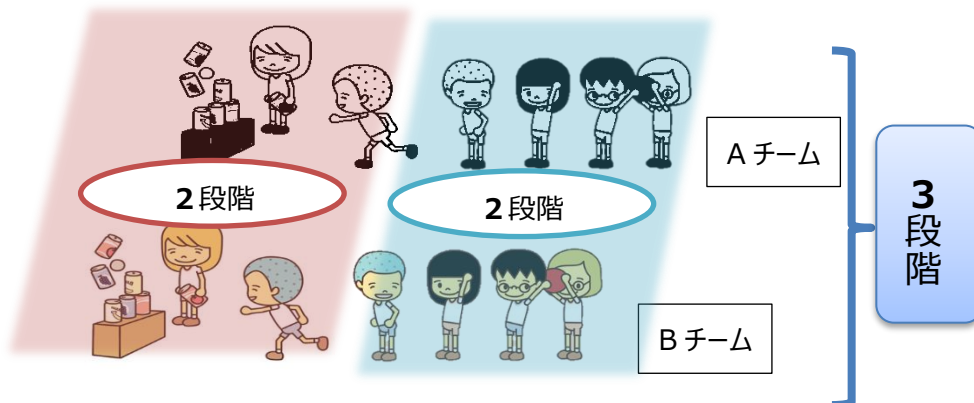


図5 ゲーム性のあるボール運動のイメージ

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.18 11月20日  
研究部 文責：寺門

## 単元シート：「学習評価」と「単元の反省」

単元シートを活用していただいている先生方より、「学習評価」や「単元の反省」はどう書いたら  
よいか?というご質問がありました。

本号では、6月に単元シート（提案時は「略案」）を提案したときの説明について、振り返りたい  
と思います。

| 単元の目標 |  |  |  | 育成を目指す主な教科等の資質・能力 |  |  |  |
|-------|--|--|--|-------------------|--|--|--|
|       |  |  |  | 知                 |  |  |  |
|       |  |  |  | 徳                 |  |  |  |
|       |  |  |  | 主                 |  |  |  |

| 時期 | 日付 | 主な学習内容 | ○手立て・留意点 | 評価 | 個教科 | 個別の目標 | ◎達成 ○部分達成 △達成できず | 評価 | メモ欄（配慮・具体的な姿など） |
|----|----|--------|----------|----|-----|-------|------------------|----|-----------------|
|    |    |        |          |    | 知   |       |                  |    |                 |
|    |    |        |          |    | 徳   |       |                  |    |                 |
|    |    |        |          |    | 主   |       |                  |    |                 |

① 「個別目標」の到達度を評価します。TIが一目して理解しやすいように、記号で記入します。補足説明があれば、メモ欄を活用します。（狭いですが…）

②

③

| 単元の反省（学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの観点から） |  |  |  | 育成を目指す主な教科等の資質・能力 |  |  |  |  |  |
|-------------------------------------|--|--|--|-------------------|--|--|--|--|--|
|                                     |  |  |  | 知                 |  |  |  |  |  |
|                                     |  |  |  | 徳                 |  |  |  |  |  |
|                                     |  |  |  | 主                 |  |  |  |  |  |

①を踏まえながら…、始めに記入した「育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）」に対応させながら、「学習評価（何が身に付いたか）」を記入します。

単元シートの記入の仕方を振り返ると、①②は児童生徒の理解が大きく関わること、③は次年度の実践や教育課程の改善につながることに改めて気付きました。ご質問をお寄せくださった先生方、ありがとうございます。

今年度の校内研究では、職員間で協力しながら単元シートの効果的な活用方法を見出していきたいと考えています。提案した手順や方法の他にも、先生方から「このように使ってみてはどう?」という、実践例やアイデアをたくさん教えていただけたら…と思います。

ぜひ、研究部員まで情報をお寄せください！

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.19 11月27日  
研究部 文責：寺門

## 「遊びの指導」は「遊びで」ではなく「遊びを」教える（戸田祥子先生）

小学部の初任者研修において「遊びの指導」の研究授業が行われました。小学部だけでなく、先生方の実践に広く関わると感じましたので、その際の学びについて共有いたします。

事後検討会で、戸田祥子先生より「先輩の先生から『遊びの指導は、遊びで教えるのではなく、遊びを教える』と教わった。」ということをお伝えいただきました。その後、次のような文を見付けました。



遊びを学習活動の中心に据えて。身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育てていくものです。遊ぶことそれ自体を目的とし、遊ぶ喜びを感じ、自ら遊びを発展させていくよう教師の支援的な対応が求められます。（文部省「遊びの指導の手引き」1993.9）

「遊びの指導」について、新旧の学習指導要領解説の一部を対照します。

| 旧学習指導要領解説（H21）                          | 現行学習指導要領解説（H29）                                      |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 遊びの指導では、生活科の内容をはじめ、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われ、 | 遊びの指導では、生活科の内容をはじめ、 <b>体育科</b> など各教科等に関わる広範囲の内容が扱われ、 |
| 遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。            | 遊びの指導の成果を各教科別の指導に <u>つながるよう</u> にすることや、              |

教科を具体的に挙げ、各教科別の指導につながるようすることを強調しています。本校では、小学部の「遊びの指導」において、小学部5・6年生や中学部の「体育」とのつながりを意識した指導が求められているといえます。一方で、「遊びの指導」の目的は、教科の指導ではなく「遊ぶことそれ自体」であることを忘れてはならないと思います。単元シートで考えます。

| 単元の目標                            | 育成を目指す主な教科等の資質・能力         |
|----------------------------------|---------------------------|
| 遊ぶこと自体を目的とできるように、目標を設定することができます。 | 各教科等の学びを踏まえて、実践することができます。 |

単元シートは、現在の教育課程を大切にしながら実践できる形式です。

学習指導要領の全面実施を受けて、単元の目標を各教科等と関連させて、3観点で整理している学校もあるそうです。

評価と指導をつなげる上では合理的であるかもしれませんが。ただ、遊ぶこと自体が目的であることが失われないように目標を設定するには、手順を踏みながら慎重に進めていく必要があると感じます。

周囲の学校も手探りで実践している中、私たちが今できることは、新しい学習指導要領を踏まえながら（←単元シートを活用して）石巻支援学校の良さを生かした授業をしていくことに尽きるのでは・・・ということをお再認識しました。





まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.20 12月9日  
研究部 文責：寺門

## 教科の内容を習得するための活動ではなく… (生活単元学習の手引き：文部省 1986)

前号の「遊びの指導」と関連して、教科等を合わせた指導の「生活単元学習」についてです。

生活単元学習で取り組む学習活動は、いろいろな領域や教科の内容を習得するための活動ではなく、生活上の課題を達成するための活動である。生活上の課題を成就するための活動に取り組む過程で、結果として、いろいろな領域や教科の内容が習得されるのである。

(文部省「生活単元学習指導の手引き」1986)

新旧の学習指導要領解説にある生活単元学習の記載を一部を対照します。(下線：変更点の強調：寺門)

### 旧学習指導要領解説 (H21)

### 現行学習指導要領解説 (H29)

児童の知的障害の状態等に応じ、遊びを取り入れた生活単元学習を展開している学校もある。

知的障害の状態等に応じ、遊びを取り入れたり、作業的な指導内容を取り入れたりして、生活単元学習を展開している学校がある。どちらの場合でも、個々の児童生徒の自立と社会参加を視野に入れ、個別の指導計画に基づき、計画・実施することが大切である。

単元は 必要な知識・技能の獲得とともに生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。

単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。

今回の改定で「個別の指導計画との関連」や「育成を目指す資質・能力の三つの柱」の表記が追記されました。現行学習指導要領では、目標や評価を教科等の三つの柱で整理していることから、生活単元学習の指導においても教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて実践することが大切であるといえます。

単元シートに関連して考えてみます。

| 単元の目標                         |             | 育成を目指す主な教科等の資質・能力       |  |
|-------------------------------|-------------|-------------------------|--|
| 生活上の課題を達成するための目標を設定することができます。 | 知<br>思<br>主 | 結果として習得する教科の内容を明確にできます。 |  |

昨年度、小学部の全校授業研で生活単元学習「夏を楽しもう」の授業をしました。児童の実態から国語の表現力を中心とした指導過程を提案したところ、「夏の季節を感じられる指導過程にすべき」と、指導をいただきました。その理由に、このような根拠があったのだと気付きました。

| 教科 | 個別の目標 | 目標 | 育成を目指す主な教科等の資質・能力 |
|----|-------|----|-------------------|
| 国語 |       |    |                   |

上段の枠は教育課程で設定している段階の枠です。この枠を踏まえ、下段の枠に個々の段階に応じた目標を設定することで、個別の指導計画を生かした実践をすることにつながると考えます。

私たちが積み重ねてきた実践が、どのような教科等のどのような資質・能力の育成につながるのを見直す取組は、石巻支援学校の良さを確かめる取組だと思えます。これまでの実践を大きく変えることはないのだと思えます。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No. 2 | 1月6日  
研究部 文責：後藤

## 中学部研究授業 保健体育「持久走」

11月18日(水)に中学部研究授業を、12月2日には事後検討会を行いました。中学部は、学部全体で授業を行うことが多いという特性を生かして授業研究を進めてきました。概要をお知らせします。

### 1 事前検討会(10月19日)

授業者の菅野先生が単元シートを作成するに当たり、疑問に思ったことや迷っていることについてお話をいただきました。



教育課程に示されている「持久走」は、決められた時間を走り続けることで「体づくり運動」の延長として体力を付けることが目標となっています。でも、学習指導要領に示されているのは陸上競技としての「長距離走」で、長い距離を走ることが目標なんです。教育課程と学習指導要領のどちらに沿って授業を考えるか迷ってしまって……

これについて学部全体で話し合いを行い、「長距離走」として取り上げて「3周を走る」ことを中心に授業を組み立てることにしました。また、目標について捉えを確かめ、走力でグループ分けをして競争の意識を高めることにしました。



### 2 授業が始まってからの変更点

走力別で授業をする効果を高めるために、目標や取り組む内容も実態に合わせるよう変更しました。

- ① グループ(校庭を3周走ることができるグループ)は3周走を行い、タイムで目標を設定する。
- ② グループ(校庭を3周走ることが難しいグループ)は自分の記録に合わせて3分間でどれだけ走るか目標を設定する。

### 3 研究授業の様子



自己ベストを目指して走る3周走



上位3位の発表

ピブスがわたされます



自己ベスト賞の発表

もらったメダルは教室に貼ります

## 4 事後検討会

### 1) 事後検討会に向けて

授業が終わった後に、成果と改善点について付箋に記入していただきました。

### 2) 自評 菅野真資先生より

- ・ T1だったため担当の生徒につくことができなかった。もっとT2との分担を明確にすると良かった。
- ・ 30分の授業の中で効率を考えすぎた。もっと丁寧にやった方が良かった。
- ・ 今回の研究授業をしたことで授業の幅が広がった。

### 3) ワークショップ

2グループに分かれて付箋を表に貼りながら互いに意見を出し合いました。改善点の中から実践可能で優先順位の高いものを一つずつ絞りました。

### 4) グループごとに発表

各グループで発表した内容からいくつかご紹介します。

**視点①一人一人の学びが各教科等の資質・能力の育成につながっているか**

<成果>

- ・ 上位3位までのビブスや自己ベストシールをもらうことで目標が明確になった。
- ・ 終わりが見えやすく、見通しが持てた。

<改善案>

- ・ 個別の目標が学習指導要領と合っているか吟味する必要がある。
- ・ 目標が分かる視覚的支援がもっとあると良かった。

例えば iPad, 写真, イラストなど。

**視点②その他（主題に関連して、略案形式の改善点など）**

<成果>

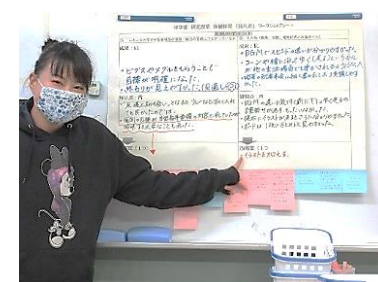
- ・ 単元シートの「配慮事項」に細かく書かれており、支援しやすかった。
- ・ 計画段階から共通理解し、実際の授業を通して実践的な共同研究になっている。

<改善案>

- ・ 提示にイラストがあるとさらに分かりやすかった。
- ・ 段階に合った支援の仕方を工夫したい。



小グループのワークショップ



グループ毎に発表

### 参加者の感想



授業や改善案など自分一人では見つけられなかったけれど、ワークショップを行ったことによって新しい発見があり、勉強になりました。

小学部と中学部の段階の違いや繋がりをもう一度確認しなければいけないと感じました。

授業を提供して下さったT1の菅野先生, 中学部の先生方, ご助言をくださった先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

まなびを  
つなげる

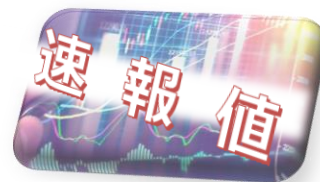
# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.22 1月7日  
研究部 文責：山崎・寺門

## まとめのアンケート①「回収率100%！」

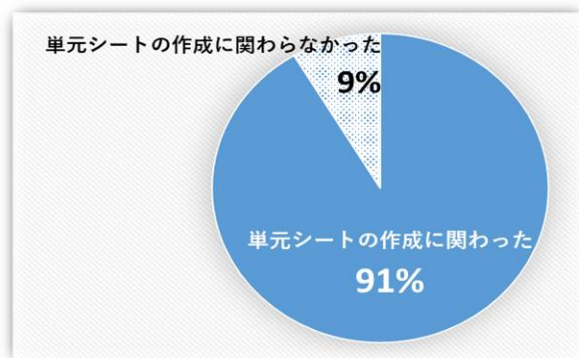
校内研究まとめのアンケートへの御協力ありがとうございました。12月は、全職員から御回答をいただきました。研究全体会までに多少の変動があるかもしれませんが、現段階での調査結果をお知らせいたします。



※多少の変動があるかもしれません

### 1. 単元シートの作成に関わった教員の割合

6月に単元シートの提案をさせていただきました。その後の単元構想の期間、夏休みや冬休みなどの休業期間を除くと、実践できる期間は、5カ月にも満たなかったことと思います。その中で、9割以上の先生方に単元シートの作成に関わっていただきました。



### 2. 単元シートの各項目に関わった単元の数

単元シートに記入する7つの項目(図2), それぞれに関わった単元の数を図3にまとめました。

「D個別の目標」の項目が最も多いですが、他の項目も2度・3度と作成していただいている先生方が10名以上いらっしゃる事が分かりました。

(No. 23に続きます。)

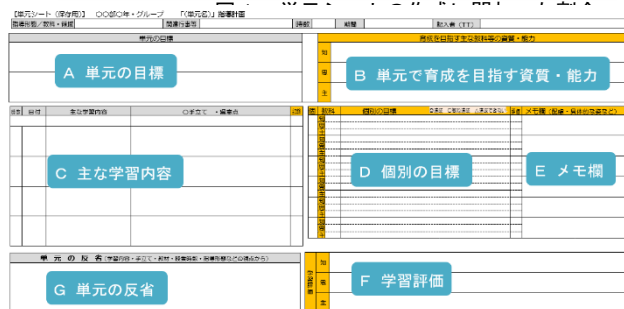


図2 単元シートに記入する7つの項目

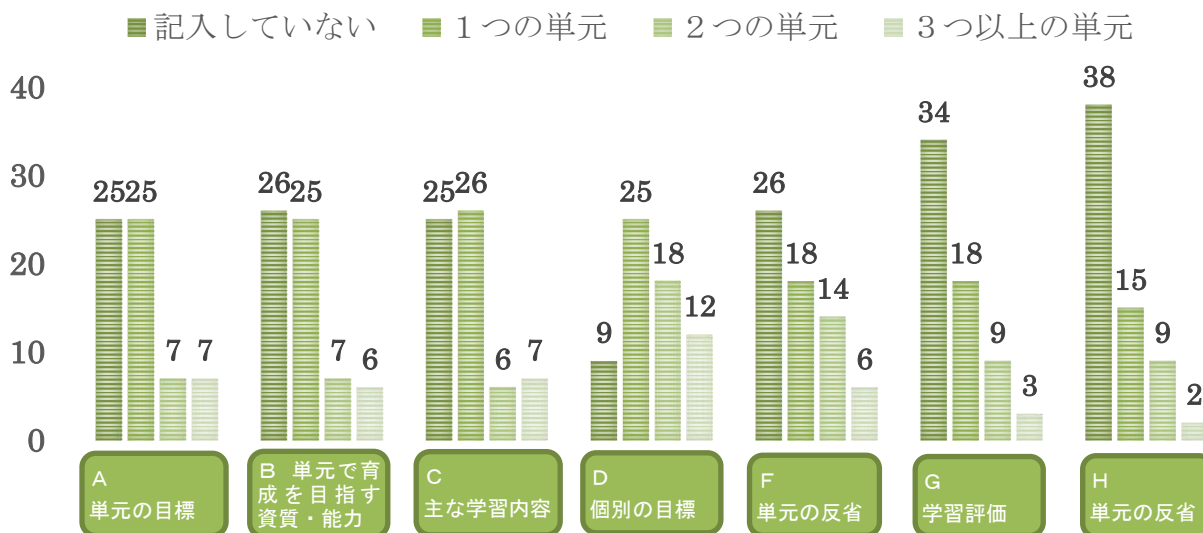


図3 単元シートの各項目に関わった数

まなびを  
つなげる

# 研究通信



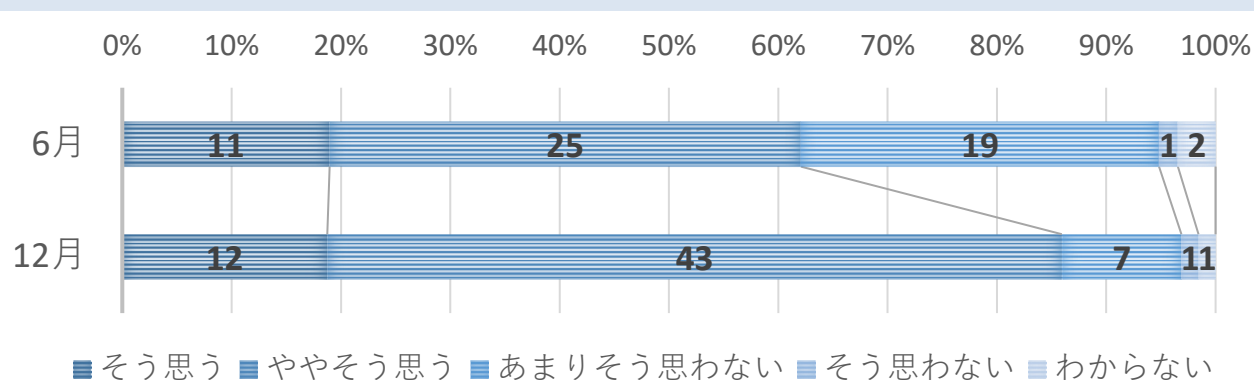
宮城県立石巻支援学校  
No. 23 1月7日  
研究部 文責：山崎・寺門

## まとめのアンケート② 6月と12月の比較 1 (6月：58名，12月：64名)

2度の調査を比較してお知らせいたします。研究紀要の作成に向けて、数字のみでなく自由記述の内容からも考察しております。こちらに反映していない御意見や書き忘れた内容などありましたら、研究部員にお伝えください。研究紀要や次年度の取組に生かしていきたいと思っております。

### 設問 1

単元の目標は、何の教科のどのような力を育成することにつながるかを踏まえて設定できていると思いますか。

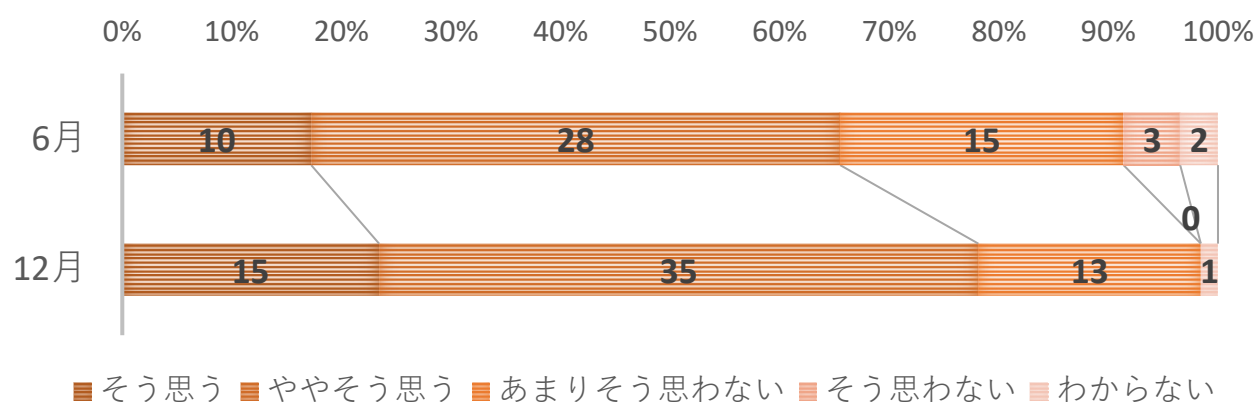


### 【自由記述】

- 本当に理解して目標設定できているか自信がない。
- 活用しながら、教育課程の改善につなげられたらいいと思う。
- 教育課程を参考にしていますが、これで良いのか、足りない所はないのかなと思う所があります。
- 3観点すべてかと言われると難しい。
- 生徒の実態に大きな差があるから。
- 単元シートを作成してみると、教科を意識して設定するようになりました。その分、単元の目標が適切か迷ったり、考えたりするようになりました。
- 個別の目標を立てるときに活用することができた。
- Cはやや当てはまるかもしれないが、ABには難しい。当てはめようとすることで、したいけどできない授業が増えると思う。
- 教科等の資質・能力から個別の目標を考えたから。
- 教育課程を確認している。
- 学習指導要領の教科の特性、指導内容、段階を踏まえ、本校の教育課程、生徒の実態を併せて考えると、目標が定まってくるため。

## 設問2

単元の学習を展開する上で、児童生徒の個別の目標は教員間で共有できていると思いますか。



### 【自由記述】

- 話し合う時間が足りなかった。
- 目標を設定する上で、学年間で話し合い共有できていると感じる。
- 単元シートには記入しているが、「活用」までには至っておらず、明確に「ここ！」という所まで頭に入っていないと思うため。
- 15:30~の時間を効果的に使えたらと思う。
- 研究授業の時は何度も話し合いを重ねる中で一人一人の良さを引き出すことを心がけていた。しかし、その後は「入れておいてください」という流れになり、全体で共通理解していたとは言い難い。もちろん、日々の活動の中で自然に共有していくのだが。
- 事前に全員の分が記入されたものを用意するのか。そして、それを見合う時間が取れていない。
- まず始めに個別の目標を立てる所が出来ていない（反省）。
- 単元の学習を展開するとき、担任間で生徒の活動、一人一人ができることや、行うことなどを話し合うので。
- 一つの授業をみんなで作れば、当てはまると思います。一人でとなると…。
- 単元シートがあるときは、他学年の生徒の目標も共有することができた。
- 教員間で話し合いをした訳でもなく。ただ、どのような状況でもサポートできるように一応全員分は記憶するようにした。
- 同じような実態の児童生徒の場合、どのような目標を設定しているのかや、どのような部分を大切にするかを確認していた。
- TT間でおおよその生徒の実態が共有されているから。
- TT間で見合って確認したから。
- 事前に単元シートで確認できるから。
- 相談している。
- 目標を立てる際に話し合いを行うことで、単元シートを活用してできた。

まなびを  
つなげる

# 研究通信

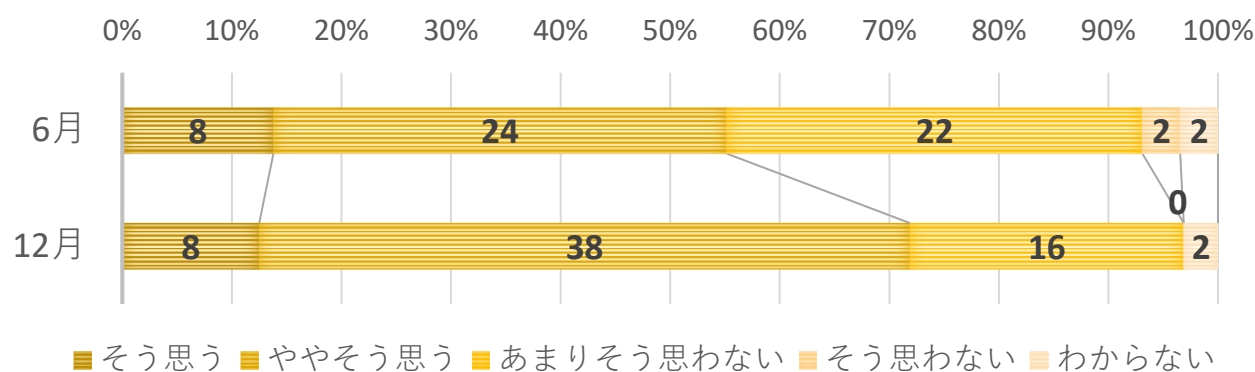


宮城県立石巻支援学校  
No.24 1月7日  
研究部 文責：山崎・寺門

## まとめのアンケート③ 6月と12月の比較2 (6月：58名，12月：64名)。

### 設問3

単元を通して、児童生徒に何の教科のどのような力が身に付いたかを踏まえて、評価や反省ができていますか。

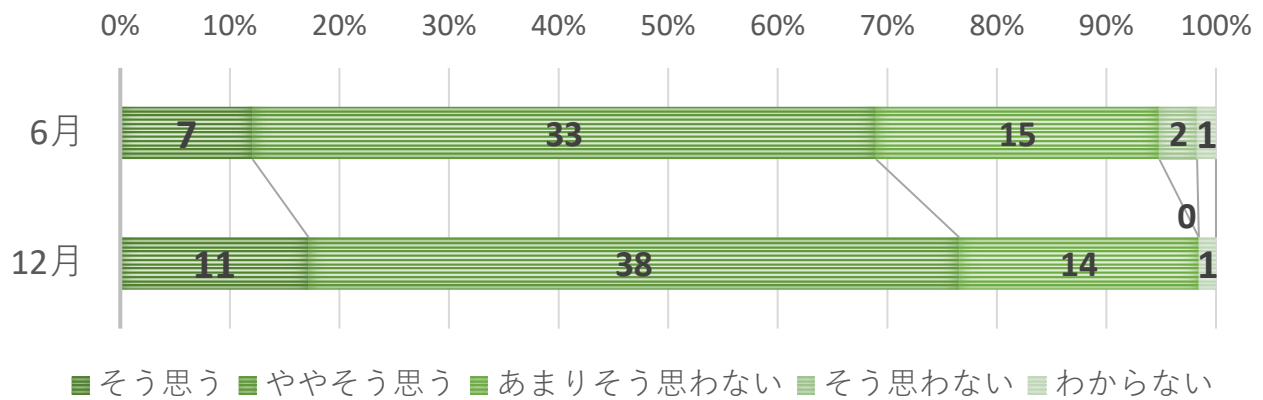


### 【自由記述】

- ねらった目標とは違う力が身に付くこともあった。それはそれでいいと思う。
- 教科のどのような力が身に付いたか考えると少し難しいと思った。
- どのような力が身に付いたかという点は踏まえているが、「何の教科の」という点は意識が薄いことがあると思ったため。
- さらに、個別の指導計画の改善につなげたい。
- まだ、評価・反省まで記入されたものを一つしか見ることができていないので。
- まず始めに、個別の目標を立てる所が出来ていない（反省）。
- 3観点すべてかと言われると難しい。
- 日常、忙しくて記入まではいかないが、個別の指導計画の目標、手立てをリンクさせられるとありがたい。
- 目標はしっかり立てているが、それをフィードバックする時間もないし、共有する場面もなかったように思う。
- 個別の指導計画提出前に合わせて評価しているから。
- 基本、「できる」ことを前提に計画しているので評価といっても生徒ではなく教師側の評価になってしまう。
- 反省を記入したものを教員間で共有しているのかが分からない。
- 学習後、あれこれと反省しますが、それを記入しておくことを怠ってしまいました。
- 目標を立てると評価できるから。
- データとして、保存できていない。

#### 設問 4

日常生活の指導や生活単元学習，遊びの指導や作業学習を展開する上で，何の教科を合わせて指導しているかを意識できていると思いますか。



#### 【自由記述】

- 個人的には，意識して行っているつもりだが，教員間で共通理解できている場合とそうでない場合があったと思う。
- 単元シートに記入することによって，意識できるようになってきたように思う。
- 教育課程に書かれている教科が多すぎたので，単元シートで絞って授業を考えました。
- 意識するようになってきました。
- 単元シートは記入できても，行動や作品完成にまず心が向き，教科を指導しているという意識が自分の中にまだできていない。
- 意識するようになったと思います。
- かなり意識が高まりました。
- ②や④で目標を立てる際に，特に意識していると思います。
- 個別の指導計画の形式変更を受けて，中にある教科を場面場面で考える機会が増えた。
- 小学部だとなかなか教科で「課題にチャレンジ」ができなくて，その部分を日常生活や遊びの指導等で入れている気がしていた。
- 教科を整理していく過程で合わせた指導が見通され，そこで改めて気付かされた。
- 正直，後付けしている時もあります。
- 教科等から目標を設定すると理解しやすいから。



御協力ありがとうございます。

研究のまとめに向けて考察しているところですが，  
反映できていないご意見がございましたら  
研究部員にお話しただけたらと思います。



まなびを  
つなげる

# 研究通信

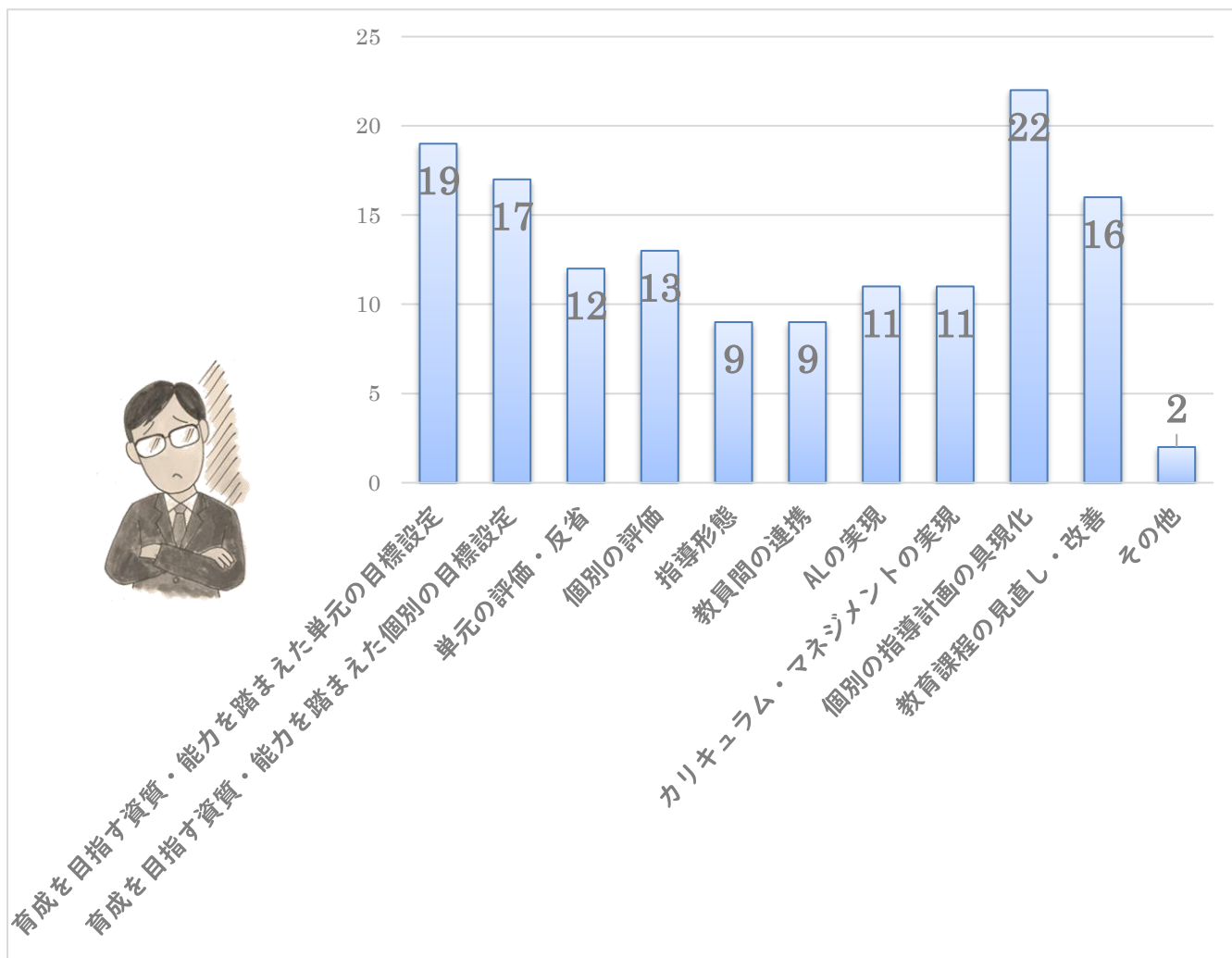


宮城県立石巻支援学校  
No.25 1月7日  
研究部 文責：山崎・寺門

## まとめのアンケート④

授業を行う上で不安を感じている内容があれば選択肢の口を✓(チェック)してください。

(複数回答)



### 【その他の記述】

- 自活と教科について研修や複数の段階の実態に対応する授業作りについての研修が必要。
- 1枚のシートで作成するのに、ねらう段階は生徒の実態によって大きく差が出る。
- 誰が見ても分かりやすい文面から児童生徒の姿や顔が思い浮かぶような目標もありかと思えます。なぜなら自分が担当した生徒がそうだから。
- 以前の略案よりも児童生徒の実態がつかみやすくなった。自分が担当している児童生徒以外の目標を見ることができ、他の児童生徒に言葉掛け等もしやすくなった。この子の担任になった時にここをねらうんだとか、こういう指導をしているんだと勉強にもなった。

## 【自由記述（アンケート項目に関係なく）】

- ⑥の書き方に悩みました。それぞれの「できる・できない」をどう表したらいいのか…と。
- 研究とは関係のないことかもしれませんが、キャリア教育、志教育についても小学部から意識付けしていきたいです。
- なかなかじっくり話し合う時間が取れなかったと思う。計画と反省の段階で、児童の実態や支援方法、活動内容について話し合い、次の学習に活かせれば良かったが、やりっぱなしになってしまった。
- 単元シートの個別の目標を書き込むまでで安心して、その後の評価や反省には意識していなかったです。
- 実際にはもっとたくさんのことをねらって、それぞれについて評価があるのだが、指導要領を基に個別の目標を設定したものに対する評価を記述するとなぜかつまらない文しか書けない自分にガッカリ。
- 事中や事後に単元シートを見直したり、メモ欄に記入したり、個別の評価をする流れを自分の中で持っていない。今後、自分が作った、また他の先生が作成された単元シートを職員室の机に出しておいて、すぐに見ることができるように、メモすることができるようにしておきたい。
- 年度途中で復帰させていただき、新しい単元シートの書き方も十分に理解しておらず申し訳ないと思っています。寺門先生が率先してお手本となるシートを作成して下さるので参考にしながらやらせてもらっています。TIでこのシートを作成することで、深く教材と向き合えているように感じます。
- 評価の記入まで求められるなら、個別の指導計画の目標、手立てとリンクさせられるようにしてほしい。
- 授業の計画を立て、内容を検討し、教員間で共有して個別の教材を準備して実施するので精一杯です。個別の目標を単元ごとに立てるのはとても骨が折れます。C課程では一斉授業が成り立つグループもあります。目標が似ている生徒もいて、あまり必要性を感じませんでした。もちろん、特別支援学校なので個別の目標を立てて然るべきだと思います。しかし、毎日次々と実施しなくてはいけない授業がある中で目標の検討だけに割く時間はそんなにありませんので、できるだけ簡易な様式だとありがたいです。
- 結局、研究にやる気のない人にとって、今年は楽をしたと思います。進んで単元シートを作ろうという気持ちにならない人が一度研究部員になったら…。その大変さを味わうべき。研究と修養は教員の義務です。
- シートがなくても、生徒の実態を踏まえて、教員間で連携はとれていると思います。この生徒では「ここを！」「ここまでを！」学ばせたい、は始まる前に確認するものだと思っています。そう教わってきました。
- 学部反省にもありましたが、「共通理解（話し合う）する時間が無い」という点が気になっています。15:30～16:00までの有効利用という点でより意識的に活用できると良いです。メモ欄をより有効に使えると、支援→評価につながっていきますよね（その点はどうだったのでしょうか。）。)
- 単元シートを作成・活用してみようと思いつつ…取り組めていない現状です。申し訳ありません。



貴重な御意見  
ありがとうございます

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.26 1月12日  
研究部 文責：寺門

## 校内研究の公開に関する意見のまとめ

12月に学部ごとにいただいた御意見をまとめました。御協力ありがとうございます。

|    |                             |                                                                                                                           |
|----|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的 | 授業力の向上<br>※私たちの取組について見識を広げる | 【研究推進委員会より】<br>・公開を持つことは、私たちの大きな学びになる<br>・本校の取組が独り歩きしないようにする機会<br>・完成形でなく、実践や悩みを交流する会に<br>・他校の良い参考になるのでは<br>・感染症への対応に配慮する |
|----|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 公開研究会の意義について、上記についてのお考えを教えてください

- 上記の通り ○授業力向上の良い機会 ○実践や悩みを交流 ○研究への意識が高まる  
○様々な方面から刺激・学び ○本校の取り組みが一人歩きしないようにすべき  
○経験豊富な先生方から参考になるアドバイスをいただきたい ○個別指導の一助  
○客観的意見をいただく良い機会 ○他校へ発信する良い機会 ○実践と悩みの交流会  
△公開のための研究にならないように

- 研究部や初任の一部だけがんばっている ●授業提供者の負担が大きい  
●授業力の向上につながるか疑問である ●単元シートの活用＝授業力向上ではない  
●公開は数年計画ですべき ●今の時期にどうしてもしなければならないのでしょうか？  
●研究推進委員会でどのような話し合いになって公開の結論になったのか？責任の所在が曖昧

### 心配なことや気になることを教えてください

- 提案内容に概ね賛成 ○ITやwebの活用が安心である ○県内中心で実施してはどうか  
●他の校務に支障の無い範囲にしたい ●多数者来校は不安 ●感染症に対する心配  
●時期尚早もう少し検討してから ●今年度一人一実践はできたのではないか  
●新教務システムとの関連は？ ●シートの形式を再考すべき  
●ワクチン等でないと実施が難しい ●「悩みを交換」は研究として文言が不適切  
●業務増加による職員の健康状態の悪化が懸念される  
●教育課程が整っていない状況では、有意義な意見交換ができないのではないか  
●もう少し私たちで理解を深めることが必要である ●参観者がいて授業が成立するか心配  
●何を公開するか分からない ●シートの改善が考えられる状況で、意味のある会になるか心配  
●公開の規模が大きくなっていき、私たちの負担が大きくなるのが心配

研究全体会に向けて、御意見を取りまとめさせていただきます。たくさんの御意見ありがとうございます。

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No.27 1月22日  
研究部 文責：寺門

## 季刊誌「特別支援教育『冬』」について

新しい季刊誌が届きました。今号の特集は「自立活動の指導の充実」です。回覧するにあたり、共有したい内容を取り上げてみたいと思います。(口の中は引用)

### 自立活動の指導の充実 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課) P.4~

今回の改定で「**カ** 個々の児童又は生徒が、自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げる**こと**」が、新設された事項であることに触れた上で、次のように述べています。

障害のある児童生徒が自立し、社会参加するには、各教科等で学ぶ知識技能等の他に、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を身に付けていく必要がある。(P.7 下段 L.21~)

教科等で身に付けていく力と自立活動で身に付けていく力を明確に区別しています。校内研究のテーマである「各教科等の資質・能力」の理解を深めていくためにも、自立活動の学習について研修を重ね、両者を明確に区別していくことが大切なのかもしれません。

### 中学部における自立活動と各教科の連携 (徳島視覚支援学校) P.10~

音声学習と並行して点字学習に取り組み、点字による教科学習へ移行していった。(P.10 中段 L.1~)

「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力」として、音声言語や点字などを自立活動で学び、教科等の学習を充実させた実践について掲載されています。障害種に関係なく共通した考え方があるのかもしれません。

### 「社会に開かれた教育課程」を目指して (千葉県立富里特別支援学校) P.42~

紹介されている「シートⅡ」「シートⅢ-1」を合わせたものが単元シート、「シートⅢ-2」が授業シートと同じような役割をしているようです。全国で似たような取り組みが行われていることが分かります。ただ、下の学年の段階の児童生徒への指導に疑問が残りました。単元シートのように、個別の目標を記載するなどの手立てを講じているのだと思います。

### その他にも様々な情報があります。ぜひご覧ください！

P.60~教育委員会がリーダーシップを発揮して時数を明確にした教育課程の作成を…

P.54~最新！教育課程と個別の指導計画の活用には、どの学校にも同じような課題が…

P.18~プログラミング教育を取り入れた自立活動の実践(アンプラグが多い?)

P.14~宮城県立聴覚支援学校の実践も掲載!

## 特別支援教育 冬



「自立活動の指導」の成果の発信を期待する



新聞にも取り上げられました。  
(2020-5-31 河北新報)

まなびを  
つなげる

# 研究通信



宮城県立石巻支援学校  
No. 28 2月2日  
研究部 文責：寺門

## 第二回 研究全体会 2月10日(水) 15:20~16:30

第二回研究全体会は、研修の日を二回分行う予定です。前半は、学部研究についてポスター発表、後半は研究全体のまとめと次年度の校内研究について確認させていただきます。次の3点ご確認ください。

- 御自身の学部のポスター発表については、学部会で確認の機会をいただくことになりました。他の三つの発表から二つ選んで御参加ください。
- 当日、15時ごろにはポスターを掲示させていただきます。ぜひ御自由に御覧になっていただけたらと思います。また、準備が終わり次第、研究部員もなるべくポスターの近くにいるようにいたします。御質問、お気付きの点などございましたら、お気軽にお問い合わせください。
- 全体のまとめの発表に向けて、現段階までに作成した研究紀要を校務システムにアップいたします。全体会の質問タイムは限られた時間になると思います。事前に御意見・御質問をいただけたら幸いです。

### 当日の予定 (15:20~16:30)

- 15:20 本日の流れについて  
校長先生から
- 15:25 ポスター発表① (発表9分, 質疑5分, 移動1分)
- 15:40 ポスター発表②
- 15:55 移動・休憩
- 16:00 全体会のまとめ, 次年度の提案
- 16:25 根岸教頭先生から
- 16:30 終了 (1日入学の準備へ...)

## 四つのポスター発表

先日の校務部会で、発表の内容を検討しました。



小学部

多くの実践から単元シートの有用性を検証します。



中学部

学部全体で教育課程の改善につながった取組を発表します。



高等部

教科の目標や内容への意識の高まりを確かめます。



教育課程の工夫

単元シートのさらなる可能性を考え、提案します。

## あ と が き

学習指導要領の改訂に伴い、教科等における育成を目指す資質・能力が明記され、評価の観点も4観点から3観点到整理されました。また、小・中・高等部における学びの連続性が重視され、各教科等の目標と学習内容が段階で示されました。

この改訂を受け、本校では研究主題を「各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫」、副題を「～教員間で活用する「単元シート」の作成を通して～」として研究を進めてきました。これまでの教育課程を新しい学習指導要領の視点から見直す上で、各教科の資質・能力や学習目標や内容をどのように授業に組み入れるのか、授業の評価をどのように生かし改善に繋げていくのかを検討しました。検討をとおして作成したのが、日々の授業の中で活用できる「単元シート」です。「単元シート」を活用した授業実践を重ねるうちに、個別の指導計画の目標や評価の捉え方も変化し、個別の指導計画の様式や内容の整理もできました。さらには既存の年間指導計画や単元の内容等にも改善点が見えてきました。

このように実践と検証を通して、全学部が共通した視点で授業作りを行い検証したことで、小学部から高等部までを見据えた指導・支援の在り方を探ることができたこと、さらには学習指導要領の指導段階を意識した目標設定の在り方について整理ができたことなど、幾つかの成果を得ることができました。昨年度に引き続き、学部研究というスタイルではなく、全校研究という視点を大切に、各学部から出された授業作りの課題や成果をそれぞれの立場から検証できたことは、卒業後の自立と社会参加、いわゆる地域社会における心豊かな生活を目指した教育課程の在り方を考えることに繋がりました。

今後も、今年度の研究の成果や課題を受け、学習指導要領の内容を十分に理解し、授業づくりを柱としながら教育課程を整理していくことが必要となっていくと思います。「単元シート」を活用した授業づくりや個別の指導計画の作成、教育課程の改善においてはまだまだ課題があります。今後もより効果的な指導・支援の在り方を探るべく、実践に基づく検証を進めていきたいと思ひます。御一読いただき、ぜひ忌憚のない御意見、御指導を賜り、本校の特別支援教育の更なる充実はもとより、地域におけるセンター的役割を果たすべく、教職員一同更に精進して参る所存でございます。

終わりにになりましたが、本校の教育活動に対しまして、御協力、御指導を賜りましたすべての関係各位に心より御礼申し上げます。

令和3年3月

宮城県立石巻支援学校 教 頭 根 岸 晶

令和2年度 研究同人

校長 三浦由美 教頭 根岸晶 教頭 中澤輝博

斉藤哲郎 尾形典子 須田幸子 及川美和 中鉢佳子  
高橋正俊 今野詩乃 高橋憂季実 大谷彩加 阿部英二

小学部 (学級順)

三浦喜代 高橋佳代 高橋敦子 松澤見帆 塩谷祥代  
男澤真理子 戸田祥子 木村圭見 黒沼千里 後藤実穂  
漢人みち 江川静花 ○遠藤仁子 岩見優作 坂下真也  
山口舞 ◎寺門政彦 武川雅子 色川信子 齋藤光  
菅原俊浩 亀浦優佑 千葉香子

中学部 (学級順)

森佳美 酒井勝利 佐久間理恵 門馬広大 武山雅俊  
伊藤貴之 佐藤まちこ 早坂威 阿部克志 ○後藤綾子  
鈴木裕一 菅野真資 千葉佳子 赤坂藍

高等部 (学級順)

大森奈津子 澤田恵理子 ○星直哉 齋藤佳子 高橋憲一郎  
松浦義勝 小岩郁子 阿部ひろみ 木村雅江 柳田敏之  
伊藤信太郎 ○富士原真悟 佐々木かおり 浅野和幸 千葉順子  
村上美季 中川一郎 阿部三津子 佐藤大貴 及川久美子  
河野智恵子 菊田翔太 齊藤和歌子 西村和佳子 ○山崎光司  
佐々木由里 長谷川史奈 齊藤博美 今野修 村上恵理  
佐藤香織 岡好和 勝又広貴 高清水英美枝 松浦梓  
大和慶宣 三浦卓 佐々木あかね